

ACTION FOR DISARMAMENT

—— 軍縮のためのアクション ——



UNITED NATIONS

10

THINGS

YOU

CAN DO!

あなたにもできる10のこと

ACTION FOR DISARMAMENT

10 THINGS YOU CAN DO!

軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと

訳：岡田 晃枝・東京大学教養学部
全学自由研究ゼミナール
「平和のために東大生ができること」



UNITED NATIONS



リビアの
人里離れた砂漠で
爆弾処理の
専門技師による
爆破処理のために
集められた不発弾

TABLE OF CONTENTS

『軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと』は
非公式翻訳書であり、国際連合にかわり
東京大学大学院総合文化研究科・
教養学部附属教養教育高度化機構が発行した。

Action for Disarmament: 10 Things You Can Do

発行：国際連合広報局・国際連合軍縮部
New York, New York 10017

Copyright © 2014 United Nations

ISBN: 978-92-1-142287-0
eISBN: 978-92-1-054111-4
United Nations Publication
Sales No. E.13.IX.6

本書に示されている見解は執筆者個人に帰するものであり、
必ずしも国際連合の見解を示すものではない

オリジナル版デザイン：国際連合広報局 グラフィックデザインユニット

本書の原執筆者であるキャサリン・サリバンとピーター・ルーカスに謝意を表す

写真および被爆者の芸術作品の本書への使用を許可して下さった
長崎原爆資料館および長崎平和推進協会に感謝申し上げます

1 序章

出版に寄せて	14
序文	16
武器の種類	20

2 あなたにもできる10のこと

ACTION 1: Stay Informed 情報収集を絶やさないようにしよう	28
ACTION 2: Start a Club クラブを作ろう	44
ACTION 3: Facilitate a Discussion 話し合いを司会進行しよう	52
ACTION 4: Express Yourself 考えを発信しよう	64
ACTION 5: Host a Film Screening 上映会を開こう	76
ACTION 6: Voice Your Concern 意見を訴えよう	88
ACTION 7: Create an Event イベントを開催しよう	98
ACTION 8: Sign Up 署名しよう	108
ACTION 9: Plan a Presentation プレゼンテーションをしよう	116
ACTION 10: Reach Out 輪を広げよう	126

3 終章

国連事務総長による核軍縮へのよびかけ	138
教育者のみなさんへ	138
フォト・クレジット一覧	138

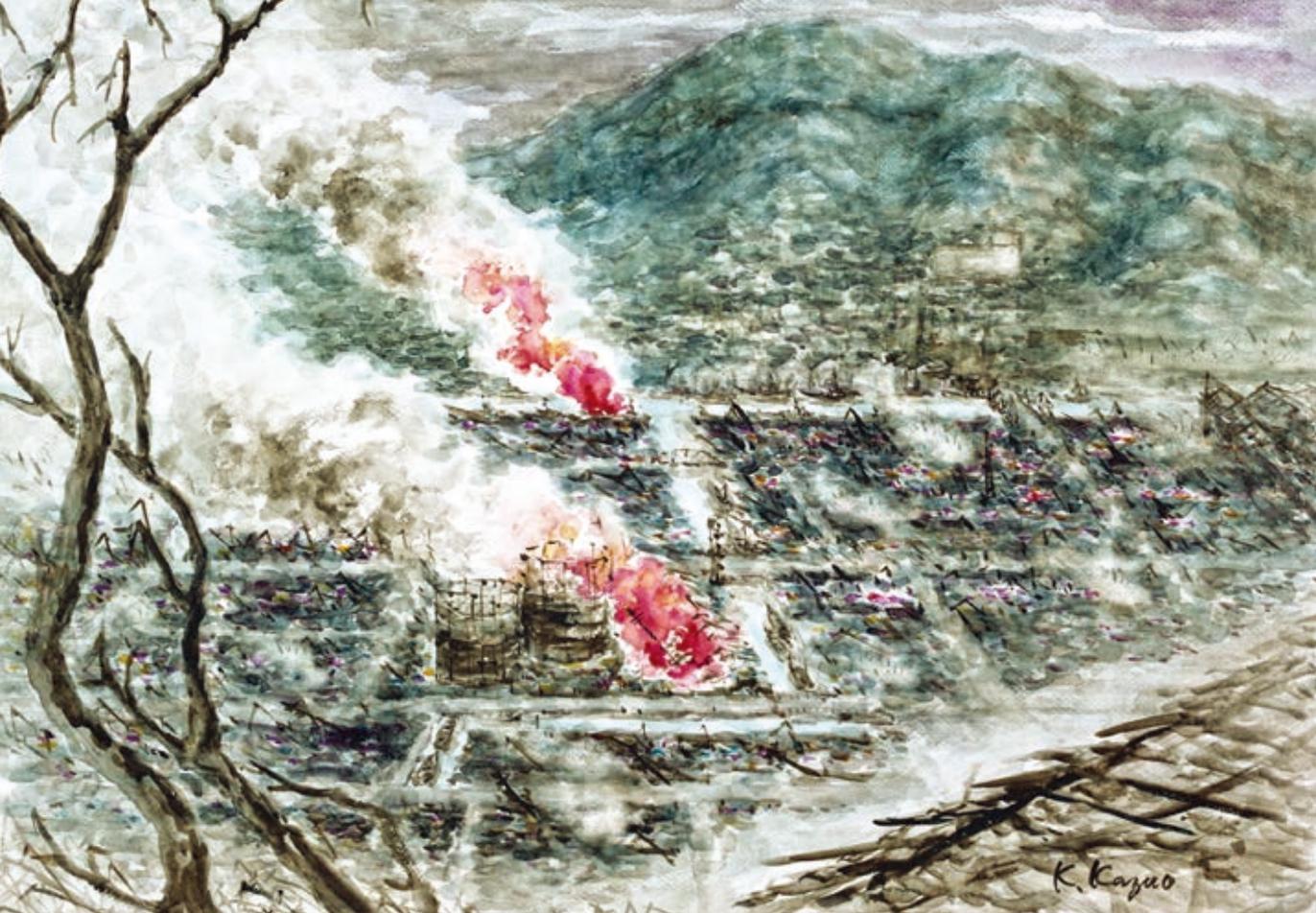


原爆が落とされる前と後の
長崎市を収めたアメリカ陸軍の写真

AFTER

BEFORE





原爆投下後の長崎市の
様子を描いた被爆者の絵



私たちは自分たちを殺しうる兵器を
規制するだけでなく、
世界中の人々の間に存在する富や機会の
深刻な格差をなくしてゆかなければなりません。
この世界には、希望や機会、
そして選択肢のない貧しい暮らしをしている
人々の方が圧倒的に多いのです。
このような状況は、自暴自棄になった人々が
最後の手段として核兵器の使用に
訴えることにつながってしまうような
不和を生む背景となっています。
私たちの唯一の希望は愛、寛容さ、忍耐、理解、
そしてこの世界を全ての人々にとって
よりよい場所にする献身の力にあるのです。

モハメド・アリ、
前国連ピース・メッセンジャー



出版によせて

現在、世界には10歳から24歳までの若者が18億人もおり、あなたがたこの世代に属する人の数が歴史上最も多い時代です。しかし若者たちは、教育を受ける機会、雇用問題、人権問題、気候変動による脅威をその一端として、さまざまな問題に直面しています。

国連事務総長は、「若者とともに、若者のために」を5つの優先課題の一つに挙げています。この事務総長の若者に関する課題設定に呼応して、あなたがた若者が自分の生に関わる政策の決定過程に関われるように、私は国連システムの随所に働きかけています。

この本では、軍縮を通じて世界の平和と安定を促進することの必要性という、上述した問題とはまた別の重要な地球規模課題に、みなさんの関心を誘うものです。

軍縮の焦点の一つは核兵器です。冷戦後に生まれた人々は、核攻撃の恐怖を知らずに育ってきました。しかし、核兵器による危険は現在もなお存在しています。潘基文国連事務総長が述べているように、「悲しいことに、たった一発であっても【核】兵器を使うことで人道的にどんな悲惨な結果をもたらされるかを、私たちは知っています。そのような兵器が存在する限り、核が使用され拡散する危険性も存在し続けるのです。」

軍縮のもう一つの焦点は、小型武器と軽兵器の不法な取引です。現代の紛争のほとんどでは、戦闘に小型武器や軽兵器が用いられて

います。内戦、組織犯罪、暴力団の抗争やテロ攻撃では、小型武器や軽兵器が好んで使用されます。使いやすく、運搬しやすく、そして隠しやすいという特徴があるからです。小型武器および軽兵器の不法な流通は、安全保障と法による支配を脅かし、経済的、社会的発展を阻害し、しばしば民間人の強制移住や深刻な人権侵害の一因ともなります。

これらの兵器による世界の平和や安全に対する脅威を取り除くために、新たな方策を練り上げるべく広く社会に呼びかけることは、若者たちの重要な役目です。軍縮という課題は無視できません。軍縮には人類の未来がかかっているのです。

若者たちはこれまで何度も変革を担ってきました。軍縮という重要な課題に、みなさんたち若者の意見が反映できるかどうかは、みなさん自身の肩にかかっています。そのための重要なツールとして、私たちはこの『軍縮のためのアクション』という本を作りました。この本の中には、軍縮の重要性を社会に知らしめるにあたって、みなさんが使えるアイデアがたくさんつまっています。

みなさんとともに、現在そして未来の人々のために、この地球がより安全になるような取り組みができることを、楽しみにしています！

——アハメド・アレンダヴィ
国連青少年特使

序 文

1914年の第一次世界大戦の勃発は、近代兵器の技術的發展にとつての分水嶺となりました。産業革命によって生み出された新しい兵器が、大規模な戦争で初めて使用されたのです。機関銃が登場し、数キロ離れた場所から砲弾を発射できる大砲も登場しました。戦場には地雷が埋められ、装甲戦車、戦艦、そして機雷を備えた潜水艦までもが使用されました。上空からは爆撃機が爆弾を投下しました。また、化学兵器の先駆けとしてマスタードガスも使用されました。戦争が続いた4年間のあいだに、一日当たり平均5,500人の命が犠牲となりました。最終的に1,000万人が亡くなり、3,000万人が負傷し、手足を失い、障害を抱えたまま残りの人生を過ごすことになりました。世界は変わってしまいました。人類は、破壊を「大量生産」するための技術的手段を獲得したのです。

第二次世界大戦においてもこの傾向は続き、せん滅する対象は今や一般市民にまで拡大しました。また、この戦争において核兵器が登場し、核時代の始まりを告げました。人類の文明も、地球上のあらゆる生命をも一掃できる核兵器が存在するというだけで、私たちの世界は永遠に変わってしまったのです。

第二次世界大戦後の数十年は、東西陣営の大国間の冷戦が、時として世界の他の場所で代理戦争をもたらしました。独立を求めて、あるいはイデオロギー的な対立のために戦争をしている国々に対して、二大核保有国であるアメリカとソ連が通常兵器を与え、その結果として何百万人もの死傷者が出ました。

1990年に冷戦が終結した後は、紛争の数が減少すると同時にその性格が変化しました。異なる国の兵士どうしが戦う国家間戦争の多くは、民族・宗教紛争に取って代わられました。経済的な目的と政治的な目的が入り乱れた武装集団が、主に小型武器と軽兵器を使用して戦う紛争が増えたのです。それらの銃のほとんどは違法に入手されたもので、世界中に残存している冷戦期の過剰な備蓄がもととなったも

のも多くあります。

今日では世界各国の政府が合計で年間1.5兆ドルをはるかに超える金額を軍事費に費やしており、第二次世界大戦後最大の規模となっています。この金額は、世界人口の一人あたりで換算すると約250ドルになります。世界全体のGDPの2.5%が軍事費に充てられているのに対して、開発援助に充てられているのは、その1/8以下のたった0.3%でしかありません。

冷戦後に生まれた人々は、世界的な核戦争の脅威のもとで生きるという絶え間ない不安を感じることなく育ってきました。1991年頃には世界に約60,000発の核弾頭がありましたが、今では約17,000発に減少しています。二つの大国が全面的な核戦争に突入する脅威は遠のきました。しかし、核兵器には社会全体を跡形もなく消し去る能力があり、誤って使用されたり、紛失したり、予期せぬ政治的な展開などの危険性があるのです。だから、問題は核弾頭の数ではありません。核兵器の存在そのものが問題なのです。

こうした脅威が今も現に存在していることを私たちが理解するためには、軍縮教育が今まで以上に必要です。この『軍縮のためのアクション』の目標は、未来を想う全ての人々が互いに意見を交換しあうように促し、軍縮・不拡散を進めるための様々な手段を知ってもらうことにあります。また、「軍縮が、世界の平和と発展を促進する基盤を与えてくれる」というメッセージを広めることも目標としています。

全ての人々、とりわけ若者は、より安全な世界を作り上げるために重要な役割を果たすことができます。核兵器廃絶から銃による暴力の規制に至るまでの様々な分野において、「行動を起こす」のです。

自分が軍縮・不拡散のどの分野に最も興味があるのかを決める前に、今日の世界に存在するあらゆるタイプの兵器について知識を得ること、つまりそれらの兵器がどのように発展し、拡散し続けているのかを知ることが重要です。



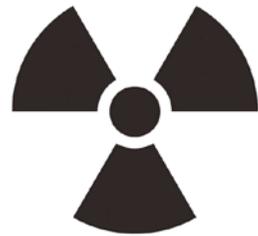
ブルンジにおける
「武装解除・動員解除・社会への再統合」
プロセスの開始に際して
燃やされる武器

平和なくして発展はなく、
発展なくして平和はありません。
軍縮はその両方のための手段を
提供することができます。
みなさんの声と強い支援があれば、
我々はこのメッセージを世界に伝え、
国際的な軍縮に関する課題を
進めることができるのです。

国際連合事務総長 潘基文 ◀
—— 2009年11月、
コスタリカのサンホセにおける
世界宗教者会議
「支えあう安全保障のための
世界青年キャンペーン」へのメッセージ



武器の種類



放射能標識



バイオハザード標識

核兵器：この世で最も危険な兵器は核兵器です。これは地球上のすべての生命に対する脅威です。核兵器は、核分裂と呼ばれる反応により大きな爆発を引き起こします。原子核が分裂して短時間に膨大なエネルギーの放出が起こるのです。

核爆発は爆風、熱、そして放射能を放出し、考えられないスケールで破壊を引き起こします。太陽の内部にも匹敵する激しい光と熱によっていわゆる火炎旋風が起こり、周囲から酸素を奪い、ハリケーンのような風を立ち上げ、それがデブリを巻き込んで嵐をさらに大きくし、火炎地獄となります。核爆発のもう一つの結果は放射能です。放射性物質は、いったん放出されると何千年もとどまる可能性があり、将来の世代に癌や遺伝子変異のリスクを負わせることとなります。核兵器の破壊力は「想像を絶する」ものであると言われています。

生物・化学兵器：生物兵器は古くから存在してきました。中世ヨーロッパの歴史には、敵方の戦闘員や市民を感染させるために、病気に感染した動物の死骸を都市の城壁の中や井戸に投げ込んだ話が詳述されています。近年では第一次世界大戦の際に両陣営とも、炭素、塩素、塩素、水素、硫黄で作るマスタードガスのような毒ガスを放出するような兵器を攻撃に用いました。生物および毒素兵器は、人間を殺害するのにバクテリアやウイルス、場合によってはバクテリアが生成した毒物を使用するという点で、化学兵器とは異なります。たとえばエボラは非常に感染力が高い細菌性病原体で、様々な感染経路を通じて拡散させることができます。化学、生物および毒素兵器は非常に致死性が高いため、国際条約で開発、生産、貯蔵、生産が禁じられています。これらの兵器は使用期限が比較的短いため、貯蔵によるリスクも大きいのです。

放射能兵器：放射能兵器は、放射性物質散布装置 (RDD) とも「汚い爆弾」とも呼ばれ、目に見えない放射性物質の散布により、経済的、社会的な破壊を拡散することを目的とした兵器です。広範囲に長期にわたる被害を与えることができ、恐怖とパニックを蔓延させることができるにもかかわらず、RDDは戦争で使用されたことはありません。しかし近年、RDDが使用されるのではないかと懸念が強まっています。放射能兵器への懸念によって、原子力発電所の稼働に関する論争が加熱しています。原子力発電所では貯蔵された使用済み核燃料や敷地内の放射性廃棄物のかたちで放射性物質が使用・生成されます。これらは放射能兵器に転用することができます。このような放射性物質が奪われて、人々や環境を破壊するのに使用されるのではないかと懸念が広がっています。

中には原子力発電所そのものが放射能兵器として利用されるのではないかと論じる人もいます。たとえば、放射性物質を広範囲に放出することができるため、戦争の際には原子力発電所は最上位の攻撃目標となりうるでしょう。放射性物質の種類によっても、拡散の方法によっても被害が異なるため、放射能兵器がおよぼす実質的な被害の大きさについては諸説あります。

主要な通常兵器：兵器や戦争について語る際、私たちはたいがい、通常兵器システムについて考えています。戦車、装甲戦闘車両、火炮システム、攻撃ヘリコプター、戦闘用航空機、軍艦やミサイルシステムなどです。各国は毎年莫大な予算をこれらの兵器に費やしています。重装の通常兵器の取引は大きなビジネスとなります。しかし地域内に武器が増えれば、それは紛争の長期化や激化につながる可能性があります。また、民主主義や人権、武器の不拡散に関して問



1945年8月9日に長崎市に投下され
7万人以上の人を殺し
生き残った人々に
今現在も治らない原爆症を負わせた
プルトニウム爆弾「ファットマン」



ソマリアのモガディシュ郊外の安全な場所で破壊処理されるアル・シャバブの武装集団から押収した75キロ以上の不発弾(UXO)

題のあった国に通常兵器が移転されるという問題が繰り返し起こっています。そのため、2013年に国際連合(国連)総会で、画期的な条約である武器貿易条約が採択されました。武器貿易条約によって国際的な武器の取引の場が整えられ、報告義務、公開性、透明性がより強化され、人権侵害者や犯罪者、武器の密売人が兵器を入手することは、条約ができる前よりも困難となりました。重要な兵器システムはすべてこの条約でカバーされています。戦車、装甲車両、火砲、戦闘機、攻撃ヘリコプター、軍艦、ミサイル、小型武器および軽兵器、さらに弾薬も対象となっています。

これは歴史的な功績です。長年の夢と積年の努力の結実です。世界の人々の勝利です。武器貿易条約によって非合法的な市場に致命的な兵器が流入することは以前より難しくなり、軍閥や海賊、テロリスト、犯罪者などは致命的武器を入手することは前よりも困難になります。武器貿易条約は、重大な人権侵害や国際人道法に反する行為を防ぐための私たちの努力にとって、新しい強力な手段となるでしょう。

—— 2013年4月22日、
国際連合総会における武器貿易条約採択によせての
潘基文事務総長のことば

地雷およびクラスター爆弾：地雷およびクラスター爆弾は、通常兵器に分類されていますが、紛争後に非人道的な影響をもたらすため、しばしば独自のカテゴリーに分類されます。この兵器が問題視されるのは犠牲者がしばしば市民だからです。その被害者のうち、およそ三分の一が女性と子供です。地雷もクラスター弾も、紛争が終わってからも、長期間その場に残ります。地雷を探知し、除去するには大きな費用がかかります。安い費用で敷設できますが、除去するのは難しいのです。世界の紛争地には6千万個もの地雷が埋設されていると見られています。

地雷禁止国際キャンペーンによると、毎年4,000人——1日あたり11-12人——が地雷の犠牲になっていると推計されています。知ら

ないうちに爆発物に接触してしまって命を落としたり、四肢や視力を失う犠牲者のうちかなりの数が女性や子供です。

地雷と同じくクラスター弾も、戦闘員のみを標的とすることはほとんど不可能で、また、戦闘が終了した後も爆発できる状態で長期間残存し続けることが多いものです。クラスター弾は火砲によって投射されたり航空機から投下されたりするもので、中に「子弹」と呼ばれる小型の爆弾が複数搭載されており、これが広範囲に散布されます。カラフルな不発弾を子供たちがおもちゃやボールと間違えて接触し、死んだり手足を失ったりするケースが頻繁に起こっています。

小型武器および軽兵器：世界で起こっている武力闘争のほとんどは、小型武器や軽兵器で戦われています。そのため、これらは「事実上の大量破壊兵器」とよばれることがあります。専門的にいうと、「小型武器」とは一人で楽に持ち運ぶことができる銃火器を指します。銃やライフル、カービン銃、短機関銃、突撃銃(アサルトライフル)、手持の軽機関銃等がこれにあたります。

軽兵器は2,3人で携行・使用するものです。グレネードランチャーや迫撃砲、ライトミサイル、携帯式の対戦車砲や対空砲、重機関銃、キャノン砲および各種発射装置がこれにあたります。主要な通常兵器と同じく、軽兵器も国際取引は主には政府間で行われますが、一方で、軽兵器を取り扱う巨大なブラックマーケットも存在するようです。

小型武器は国家間の戦争でも広く使われており、今日の紛争のほとんどは小型武器で戦われています。小型武器は安価で軽く、操作しやすく、運搬も隠匿も容易なので、内戦やテロリズム、組織犯罪、暴力団抗争でも好んで使用されています。

小型武器および軽兵器が拡散することで、紛争は激化し、和平のためのイニシアチブは阻害され、人権侵害は深刻化します。武力紛争のせいで人々は家を捨てて避難しなければならなくなり、また、武力紛争は食料不足を引き起こすことも多いのです。加えて、人間開発を進めるための努力に割くべきエネルギーやリソースが、武力闘争が起こればそこに奪われてしまいます。紛争地帯における暴力が死を身近に感じさせるものになればなるほど、また長引けば長引くほど、安全への不安が高まり、そのために武器が求められることとなります。



コートジボワールの武装勢力の武装解除を支援する国際連合の「ブルーヘルメット」(平和維持活動要員)



ソマリアのモガディシュで地雷に関する啓発のための国際デーの一環として行われた国際連合地雷対策サービス部による演習のために対象区域に張られた非常線

2001年から、国連は小型武器や軽兵器が悪の手に渡ることによって引き起こされる深刻な脅威を認識してきました。小型武器や軽兵器の違法取引に関する国連小型武器行動計画では、この国際的な脅威に立ち向かうための枠組みを設けました。これは小型武器そのものや合法的武器の所持を禁止するものではなく、また、武器の合法的な貿易、製造、所有を禁止しようとするものでもありません。小型武器および軽兵器の違法な取引に対抗し、武器がブラックマーケットに流入するのを防ぐことのみを焦点としたものなのです。

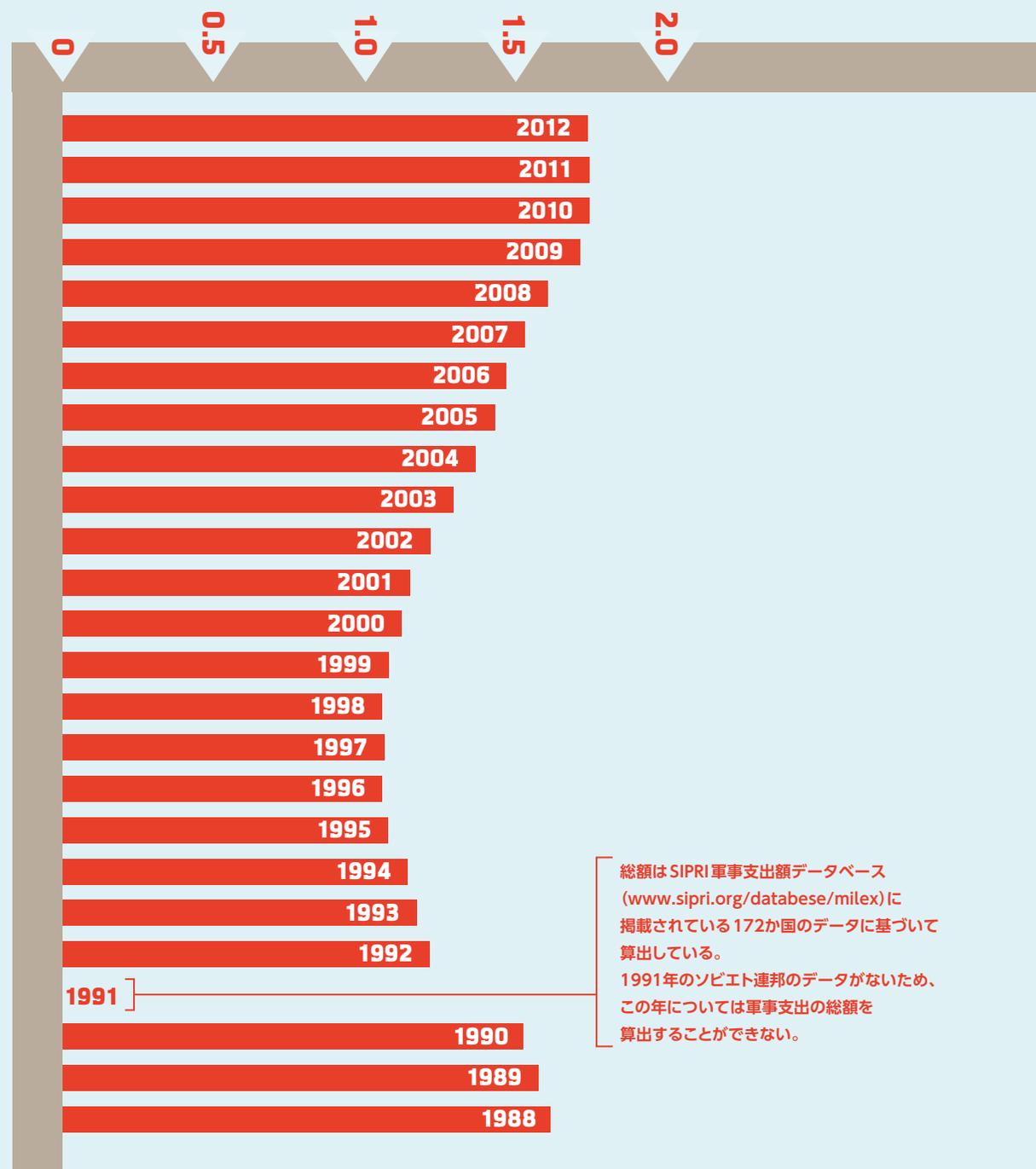


今日、軍事費も武器の拡散もかつてないほど増大しており、軍縮の重要性はますます高まっています。学生たちは、軍縮および不拡散に対する関心を高めたり、軍縮・不拡散に関する自分たちの知識や分析に基づいた行動を起こすために、楽しくて力がつくような活動を行うことができます。この本では、学生であるみなさんを対象として、さまざまな活動を提案することで、教室での勉強にとどまらない学びを提供することを目的としています。それによって、みなさんは学んだことからインスピレーションを得て、世界をより良く変えることに関わることができるでしょう。

国際連合がすべての学生たちに期待しているのは、関心を高め、行動を起こすことで、暴力を減じる一助となってほしいということです。『軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと』は、みなさんに社会を変える主体となってもらうために書かれたものです。この本に載っているような教育的方策について知っている人も多いでしょうが、軍縮との関わりという点で、この本は他のものとは若干異なります。軍縮だけでなく他の重要な社会・環境問題についても、このような手段を取ることができるでしょう。

それぞれの学習環境に応じて、ふさわしい方法を自由に選択してください。この本に挙げる10の手段は、決まった順番で行う必要があるものではありません。組み合わせてもよいでしょう。自分たちに合った方法を、自由な発想で選んでください。

世界の軍事支出額



総額はSIPRI軍事支出額データベース (www.sipri.org/database/millex)に掲載されている172か国のデータに基づいて算出している。1991年のソビエト連邦のデータがないため、この年については軍事支出の総額を算出することができない。

1兆米ドル(実質額)



STAY INFORMED

情報収集を絶やさないようにしましょう



START A CLUB

クラブを作ろう



CREATE AN EVENT

イベントを開催しよう



SIGN UP

署名しよう



FACILITATE A DISCUSSION

話し合いを司会進行しよう



EXPRESS YOURSELF

考えを発信しよう

10 THINGS YOU CAN DO!



HOST A FILM SCREENING

上映会を開こう



VOICE YOUR CONCERN

意見を訴えよう



PLAN A PRESENTATION

プレゼンテーションをしよう



REACH OUT

輪を広げよう



ACTION

STAY INFORMED

情報収集を
絶やさない
ようにしよう





軍縮問題は、組織を作ったり社会に発信したりすることにもつながりますが、まず第一のステップは、知ることです。インターネットで信頼できるソースに当たるといのが出発点としてはよいでしょう。核兵器や小型武器および軽兵器について最新の情報を見るのに有益なウェブサイトがたくさんあります。これらのウェブサイトでは、ニュースや地域情報、ファクトシート、詳細な調査分析、年表、イベントカレンダーを見ることができますし、ネットワークを広げたり、さらに深く学ぶための外部リンクが掲載されています。情報に通じておくために、まず軍縮における国際連合の役割、次に、武器貿易や核軍縮に関する問題に取り組んでいる非政府組織について見てゆきましょう。

国際連合および 関連諸機関における軍縮

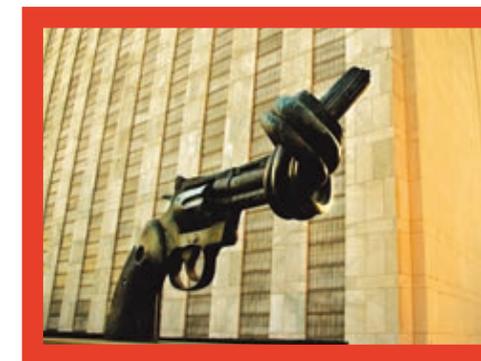
国際連合は世界的な不拡散および軍縮に関する問題に主導的に取り組む機関です。国連の中のいくつかの組織が、それぞれ役割を担当しています。国連の全加盟国が集まる**国連総会** (www.un.org/en/ga) は、「国際の平和及び安全の維持についての協力に関する一般原則を、軍備縮小及び軍備規制を律する原則も含めて」審議する責任を負う主要な機関と位置づけられています。

国連総会の活動は、いくつかの委員会で分担されています。軍縮および国際安全保障を扱うのは第一委員会 (www.un.org/en/ga/first) です。第一委員会で可決された軍縮に関する決議は総会の本会議で審議され、そこで採択されれば、軍縮に関する問題について国連が取り組む際の指針となります。

国連軍縮委員会 (bit.ly/1m2ScWt) は重点的な議論を行うための機関で、軍縮や軍備管理に関するより広範な問題について、加盟国は決議を出すのではなく議論を行います。

5つの常任理事国を含む15か国で構成されている**安全保障理事会** (un.org/en/sc) は、「国際の平和及び安全の維持に関する主要な責任」を負っています。国際連合憲章では、軍備およびその使用の規制に関する計画を策定することも、安全保障理事会の役割とされています。また、安全保障理事会には、紛争を防ぎ武力による暴力の拡大・激化を防止するため、国連平和維持部隊を紛争地帯に派遣する権限も与えられています。安保理は危機的事態に取り組みますが、紛争や戦争の根本的原因に目を向けることも多くなってきています。安保理の決議は、国連加盟国すべてに対して法的拘束力を持ちます。特定の国への武器の禁輸措置から、大量破壊兵器がテロリストの手に絶対に渡らないようにすること、また、紛争が終わった国の小型武器の問題への対処に関する基準を設定することまで、幅広い問題を取扱っています。

スイスのジュネーブに本部を置く**ジュネーブ軍縮会議(CD)** (www.unog.ch/disarmament) は、正式には国連の機関ではありません。軍縮に関する条約について多国間で交渉を行う世界で唯一の機関で



ニューヨークにある
国連ビクターズプラザに置かれている、
スウェーデンの芸術家
カール・フレデリック・ロイテルスワルトの
手による「非暴力」
（「銃身を縛られた銃」とも）の彫刻

核に関する用語集

核不拡散条約(NPT)は、1945年から1960年代半ばにかけて核兵器が拡散したことに對する国際的な懸念が高まったため、1968年に誕生した。NPTのもとで、非核兵器国は核兵器を製造し、保有することが禁止され、その代わりに医療や工業分野、原子力発電といった核エネルギーの平和利用を進める権利を得た。

NPTは、核兵器なき世界を実現するための唯一の法的拘束力のある約定である。この条約は5年ごとに「再検討」され、NPT締約国によって軍縮の進展度が評価される。学生たちにとって次のNPT再検討会議は、情報を得て自分自身がそれに関与するための絶好の機会となるだろう。

す。化学兵器禁止条約も、包括的核実験禁止条約(www.ctbto.org)もCDで締結されました。CDには国連事務総長の個人代表が派遣されており、この個人代表を通じてCDは国連とつながっています。また、会議運営には国連から財政的な支援がなされています。

国連軍縮部(UNODA)はニューヨークおよびジュネーブで、核兵器の軍縮・不拡散、化学兵器および生物兵器を含む核兵器以外の大量破壊兵器の軍縮、小型武器および軽兵器の不法な取引との闘いを推進しています。UNODAは軍縮に関する問題について、総会の決議の履行について責任を負っています。また、対話や透明性、信頼醸成措置を強化し、軍縮の地域的な取り組みを促進します。国連組織の他の部署での軍縮に関する取り組みを調整するのもUNODAです。さらに軍縮に関する教育や研究、会議を支援し、出版物や、インタラクティブかつ情報満載のウェブサイト(www.un.org/disarmament)を通じて社会全体に働きかけています。

ウィーンに拠点を置く国際原子力機関(IAEA)(www.iaea.org)は原子力エネルギー技術の平和的利用を推進する機関として1957年に設立されました。IAEAは国連傘下の自治機関であり、核兵器物

質の保障措置や、兵器開発に使用しうる核技術の拡散のモニタリングを行っています。IAEAの職員は、核兵器生成に利用できる物質の開発、生産、蓄積および拡散を監視する、最前線の交渉人であり査察官です。

ウィーンには包括的核実験禁止条約機関準備委員会(CTBTO)も置かれています。条約自体はまだ発効していませんが、CTBTOは、あらゆる主体によるあらゆる場所(地表、大気圏中、水中、地下)での核爆発の禁止という条約の目的が遵守されているかどうかをモニタリングする、国際的な検証制度の構築のために活動しています。CTBTOは、核実験を調査・検証するための技術支援やインフラ整備の提供も行っています。

化学兵器禁止機関(www.opcw.org)は化学兵器禁止条約(bit.ly/1e0LLy2)の事務局で、条約加盟国の順守状況をモニターするとともに、化学兵器の廃棄を査察しています。

生物兵器禁止条約(BWC)については独立した機関が存在していませんが、生物兵器の生産および貯蔵は条約によって禁止されています。信頼醸成措置として、条約加盟国は自国領域内に存在する危険性の高い生物研究施設等に関する詳細な情報を毎年交換しています。

ジュネーブには国際連合軍縮研究所(UNIDIR)(unidir.org)があり、軍縮および軍備管理に関する研究を独立して行っています。軍縮問題諮問委員会(bit.ly/1dJWpK7)は軍備制限および軍縮について事務総長に諮問を行うとともに、UNIDIRの理事会の役割も兼ねています。また、国連軍縮広報計画の履行についても助言を行います。

国際連合平和維持活動局(<http://www.un.org/en/peacekeeping>)の国際連合地雷対策サービス部(UNMAS)(www.mineaction.org/unmas)は地雷に関する問題における中心として活動しており、国連内の地雷に関係する活動すべてを調整しています。UNMASは地雷除去、地雷に関する啓発、危険回避教育、被害者支援、アドボカシー、備蓄地雷廃棄に取り組んでいます。

NGOおよび研究機関

非政府組織(NGO)は政府からも企業からも独立した組織で、社会



ヒント

軍縮に関する最新のニュースを追うには、Googleアラート(www.google.com/alerts)やGoogleニュース(news.google.com)を利用し、自分の関心にそってカスタマイズするのが非常に有効な方法です。Googleアラートは、あなたが検索したいトピックについて新たな検索結果が見つかったら、メールで通知してくれるサービスです。

知って いましたか？

現在武器庫にある
核兵器のほとんどは、
広島・長崎に
落とされた原爆の
およそ8倍から100倍の
威力を持っています。

変革を目的として、プロジェクトに出資するかたちで直接的に、また、政治制度に影響を与えるかたちで間接的に、地域、国内、国際的なレベルで活動しています。NGOという言葉が初めて使われたのは国際連合の設立時で、国連に関する活動を行う特定の国内・国際的組織を指していました。軍縮及び不拡散の分野では、NGOは政府の政策に影響を与えるのに寄与し、世界が直面するさまざまな問題において革新的な解決策を導き出してきました。NGOの仕事には主に次のようなものがあります。研究報告、教育とアウトリーチ、社会の関心を高めるためのメディアキャンペーン、変革のための社会的活動などです。

ここに掲載するのは、軍縮分野で活動するNGOとその概要です。これらの組織を国連が承認しているわけではありませんが、学生たちが軍縮についてより多くの知識を得るのにこれらNGOのウェブサイトは有益な情報源となるでしょう。また、これらのウェブサイトからさらに別の関連プロジェクトを見つけることができるようになります。

小型武器に取り組む NGOおよびその他の組織

アムネスティ・インターナショナル(www.amnesty.org): ロンドンに本部を置き1961年に設立されたアムネスティ・インターナショナルは人権問題に関するキャンペーンを行っている世界で最も影響力のあるNGOの一つです。1977年にはノーベル平和賞を受賞しています。アムネスティは武器貿易条約の締結においても重要な役割を果たしました。

*訳注:アムネスティ・インターナショナル日本のウェブサイトあり(www.amnesty.or.jp)

コントロール・アームズ(www.controlarms.org): コントロール・アームズは、武器貿易条約締結を求める連携のために活動してきた世界的な市民社会キャンペーンです。ウェブサイトはアラビア語、英語、フランス語、スペイン語で閲覧することができます。

*訳注:日本キャンペーンのウェブサイトあり(www.controlarms.jp)

ヒューマン・ライツ・ウォッチ(www.hrw.org): ヒューマン・ライツ・ウォッチはニューヨークに本部を置く国際的なNGOで、世界中で人権保護に取り組んでいます。

*訳注:日本語で閲覧可(<http://www.hrw.org/ja>)

国際小型武器行動ネットワーク(IANSA)(www.iansa.org): IANSAは小型武器および軽兵器の拡散防止と、より厳しい銃規制の法整備や国際的な武器貿易に関する条約を求めて活動する、120か国800の草の根組織のネットワークです。

国際赤十字委員会(ICRC)(www.icrc.org): 1863年に設立されたICRCは、紛争や武器による暴力で傷ついた人々に対する人道的支援と、戦争被害者を守る法を促進する活動をしています。ICRCは独立した中立的な組織で、1949年に制定されたジュネーブ諸条約に基本的に基づく権限を与えられています。

*訳注:ICRC駐日事務所のウェブサイトあり(<http://jp.icrc.org/>)

国際平和ビューロー(www.ipb.org): 1891年に設立されジュネーブに本部を置く国際平和ビューローは、70か国282の加盟団体を通じて、戦争のない世界を目指して活動しています。1910年にはノーベル平和賞を受賞しました。現在は、軍縮と開発に関わるプログラムに取り組んでいます。

セーフアー・ワールド(www.saferworld.co.uk): 1989年設立のセーフアー・ワールドは、ロンドンとナイロビに本部を置き、アフリカ、アジア、ヨーロッパで活動しています。政策研究や、政府やNGOへの技術的支援を行う団体です。セーフアー・ワールドは、暴力の被害にあった地域への関心を高め、より安全な地域にするとともに、小型武器および軽兵器による影響の大きさへの注意を喚起するために活動しています。

スティムソン・センター(www.stimson.org): スティムソン・センターは、より平和で安全な世界のための政策案を提示したり、そのような世界の実現にとって障害となる問題を克服するため、詳細な研究や分析を行っています。



1945年8月9日に
長崎上空で「ファットマン」が
爆発した後に上がったきのこ雲

核に関する用語集

包括的核実験禁止条約(CTBT)は、大気中、水中、地表、地下、宇宙空間における核兵器の実験的爆発およびその他の核爆発を禁止しています。CTBTは1996年に採択されましたが、付属書IIに記されている44カ国全てが署名し批准しなければ発効しません。これらは動力用原子炉あるいは研究用原子炉を持っている国々で、このうち8か国は核兵器も保有しており、1か国は核兵器を保有すると信じられています。発効要件国のうち、まだ批准していない国は、中国、北朝鮮、エジプト、インド、イラン、イスラエル、パキスタン、アメリカ合衆国です。

ストックホルム国際平和研究所(SIPRI) (www.sipri.org): ストックホルムに本部を置くSIPRIは独立した国際研究機関で、紛争、軍備、軍備管理、軍縮についての研究を行っています。1966年に設立され、公開された情報を元に、データ、分析、政策提言を、政策立案者、研究者、メディア、興味をもった人々に提供しています。

スモール・アームズ・サーベイ(www.smallarmssurvey.org): スモール・アームズ・サーベイはジュネーブにある、独立調査プロジェクトです。権威ある年次報告書を含む小型武器に関する情報を一般に提供しており、政府、政策立案者、研究者、NGOから高い評価を得ています。

ビバ・リオ(www.vivario.org.br): ビバ・リオはブラジルにあるNGOで、ラテンアメリカ全体の人間の安全保障と小型武器の軍縮に取り組んでいます。ビバ・リオは、調査研究と活動型のキャンペーンや参加型のメディアプラットフォームを組み合わせてネットワークをつなげ、研究を共有します。ウェブサイトはポルトガル語、スペイン語、フランス語、英語で閲覧可能です。

核軍縮および不拡散のために活動しているNGOと研究機関

アボリション2000 (www.abolition2000.org): 1995年の核兵器不拡散条約運用検討・延長会議を機に設立されたアボリション2000は、「アボリション2000設立声明」に賛同するすべての組織に開かれています。アボリション2000は、90か国以上の2000を超える組織によって構成された国際的なネットワークで、核兵器廃絶を定める国際条約を求める活動を展開しています。核問題に関心を持つグループに、情報を交換したり合同で取り組みを行うためのフォーラムを提供することを目的としています。アボリション2000に参加している団体は、年1回会合を開くとともに、たくさんのメーリングリストや会議、テレビ会議、定期的なメールのやり取りを通じて意見交換をしています。

原子力科学者会報(www.thebulletin.org): 核兵器と核エネルギーの双方に重点を置き、現在の核拡散の問題について詳細な情報と分析が掲載されている雑誌です。この雑誌は、アルベルト・アインシュタインをはじめとする、マンハッタン計画と呼ばれる原子力研究・開発計画にたずさわっていた著名な科学者たちが、核爆弾について多くの事が明かされていないことと、核軍縮が切迫して求められていることを受け、1945年に創刊しました。

エネルギー環境研究所(IEER) (www.ieer.org): IEERの「エネルギーと安全保障」というニュースレターには、核不拡散、核軍縮、エネルギーの持続可能性に関する一流の調査研究が掲載されており、オンラインで英語、フランス語、スペイン語、ロシア語で読むことができます。一部の記事は朝鮮語、中国語、日本語でも閲覧できます。

*訳注: 「エネルギーと安全保障」日本語版(<http://www.ieer.org/ensec/japmain.html>)

国際反核法律家協会(IALANA) (en.ialana.de): IALANAは、国際法の順守と核政策の法的側面からの検討——核兵器を「一般的には違法」とする国際司法裁判所の判決に特に着目して——を通じて、核戦争の防止と核兵器廃絶のための活動を行っています。



被爆者である川口和男さんが1945年8月9日の原爆投下直後の長崎の破壊状態を描いた絵



長崎の爆心地を示すスレート煙突。
ここでは摂氏3,000度を超えて
気温が上昇し、
一瞬にしてすべてが灰になった。

核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) (www.icanw.org): ICANは、新しい世代に核軍縮に参加してもらうことを目的とした世界的な草の根キャンペーンです。写真やビデオ、文章とアートと演劇を織り交ぜた教材は、核兵器を禁止する条約を支持する活動に人々を巻き込むための手段の一つとなるでしょう。

核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) (www.ippnw.org): 保健と医療の観点から、IPPNWは冷戦激しい時代にソビエト連邦とアメリカ合衆国の医師たちによって設立されました。核戦争が「最後の疫病」になるとの考えから、彼らは核兵器と放射能の危険性を社会に呼びかけるために集まりました。1985年にIPPNWはノーベル平和賞を受賞しています。IPPNWの「核兵器負の遺産プロジェクト」(NWIP) (www.ippnw-students.org/NWIP/)は、軍縮のために行動する若い医師たちによる若者向けプロジェクトです。このプロジェクトは、核に関わる政策決定者と対立を抜きにして対話することにとりわけ重点を置き、医師としても軍縮の活動家としてもキャリアをスタートしようとしている世界中の若い医学の専門家たちを連携させるものです。
*訳注:IPPNWの日本支部のウェブサイトあり(<http://www.hiroshima.med.or.jp/ippnw/>)

科学と世界の諸問題に関するパグウォッシュ会議 (www.pugwash.org): 科学と世界の諸問題に関するパグウォッシュ会議は、1957年以来、影響力のある官僚や科学者、著名人を集めて、核兵器を廃絶し戦争の脅威を減らす方法を検討しています。パグウォッシュ会議は、会議の創設者で当時会長も務めた物理学者のジョセフ・ロートブラットと共に1995年にノーベル平和賞を受賞しました。

Nuclear Darkness (www.nucleardarkness.org/): スティーブン・スターが主導して行っているミズーリ核兵器教育基金のNuclear Darknessプロジェクトは、特に火災と気候変動に関わる核戦争の環境への影響について包括的にまとめた入門サイトです。このプロジェクトのウェブサイトには、核兵器に関するコンテンツ、記事、動画、そして他の情報源へのたくさんのリンクなど幅広い内容が網羅されているほか、火災旋風の「シミュレーター」もあり、核兵器が使用されたら世界各地でどのようなことが起こるかを詳細に知ることができま

す。ウェブサイトは英語、ロシア語、中国語、ヘブライ語で閲覧できます。

Nuclear Files (www.nuclearfiles.org): このサイトでは核時代の歴史を、原子の発見まで遡って解説付きで学ぶことができます。また、写真や動画、音声記録を含む興味深い記録資料も多数あります。教員にとっても非常に有益な資料が置かれているNuclear Filesは、核時代平和財団のプロジェクトであり、米国国立科学電子図書館(NSDL)の一部でもあります。

オックスフォード研究グループ (bit.ly/1doQJVs): イギリスにあるシンクタンクで、政策決定者、軍人、市民社会、研究者の間の信頼醸成のための対話の場でもあるオックスフォード研究センターは、詳細な研究を行い、人間の行動様式を深く理解することで、困難を極める安全保障の問題に取り組んでいます。オックスフォード研究グループは、(テロリズムや核拡散のような)安全保障の欠如によってもたらされる結果に対応するために持続可能な安全保障というアプローチを考案し、どうすれば既存の政策が、対症療法的でなく、こうした根本的な流れによりうまく対処できるかを検討しています。

リーチング・クリティカル・ウィル (www.reachingcriticalwill.org): リーチング・クリティカル・ウィルは、条約用語や条約の分析、さらに原子力や核兵器技術を保有している国についての優れた追跡調査も含め、軍縮に関する条約について基本的な情報を網羅したワンストップの総合サイトです。リーチング・クリティカル・ウィルは婦人国際平和自由連盟(www.wilpfinternational.org)のプロジェクトです。



浦上天主堂の廃墟。
1945年当時、
長崎はアジアの中で最も
キリスト教徒の多い場所だったが
長崎に住んでいた2万人の
カトリック信者のうち90%が
原爆で亡くなった。

何十年もの間、
私たちは核兵器がもたらす恐ろしい結果は、
核の使用を止めるのに十分だと信じてきました。
2つの超大国は
ビンの中の2匹のサソリのようなものでした。
サソリは先制攻撃をすれば
それが自殺行為となることを知っています。
しかしながら、サソリの巣が拡大した今、
もはや誰も安全ではなくなっています。
核兵器の最大の保有国である
ロシア連邦の大統領もアメリカ合衆国の大統領も
このことに気づいています。
彼らは核兵器のない世界を目指すことを
支持してきたのですから……。

—— 国連事務総長 潘基文 ◀
「核兵器廃絶のための
5項目の提案」より抜粋

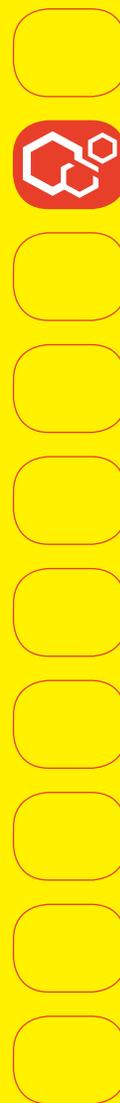




ACTION

START A CLUB

クラブを
作ろう



2

軍縮や不拡散について勉強したり話し合うには、学校でのクラブ活動や放課後の勉強会、あるいは若者による会議を開催するといった方法もあります。そうした場で話し合うことにより、参加者の興味は高まり、トピックについてもっと詳しくなるために関連資料を読む意欲がわいてきます。話し合いの場を設けることにより、活発な意見の交換が可能になり、参加者も刺激されて継続的かつ積極的に活動しようと思うようになります。クラブ活動を始めたり若者による会議を開催したりするためのプロセスを進めていくのに役立つ手順を以下に示します。これらのステップは軍縮や不拡散だけでなく、重要な社会問題や環境問題についてのクラブ活動や会議であればどんなものにも役立つでしょう。

仲間を集めよう：1人でクラブ活動を始めることもできますが、準備を手伝ってくれる別の学生たちを勧誘した方がよいでしょう。多くの場合、少人数の学生やヤングリーダーたちが非公式に集まって意見交換をするところからスタートします。顧問や調整役を引き受けてくれる大人を、教職員の中から積極的に探してみましょう。

計画しよう：クラブ活動の立ち上げを焦ってはいけません。最初の段階で、以下のことについてみんなで話し合ったり、ブレインストーミングをしたりしてみましょう。

- クラブの目的
- 考えられる活動内容
- 定期ミーティングの実施
- クラブに入っていない学生への働きかけ
- 短期的な目標と長期的な目標

相談しよう：できれば他のクラブや課外活動プログラムを見学して、他の団体がどのように活動を始め、軌道に乗っているクラブがどのように組織され、どのように運営されているかを知るようにするとよいでしょう。何がうまくいって何がうまくいかないかを知るにはとてもよい方法です。課外活動では趣旨説明や活動規約、あるいは簡単な規則も必要となることがよくあります。これら必要な書類の形式を理解するには、他団体の同様の文書があるととても便利です。

自分たちに許可されていることが何かを知ろう：学生主催の団体であれば、たいていの場合、学生たちは自分の学校や大学のキャンパスで会合を開く権利が認められています。団体を組織する際のルールについて、学生支援の担当窓口で相談してみるとよいでしょう。

活動のための資金調達をしよう：生徒や学生によるクラブ活動やその他の課外活動のために予算を用意している学校もあります。どれだけの予算を利用できるのか、そうした予算を申請するためにどんな手順を踏まねばならないか、学校の教員や職員に聞いてみましょう。多くの場合、学校の公認団体としての資格を得るためには申請が必要



ニューヨークの国連本部にて、国際平和デー「Peace—A Climate for Change」における平和の鐘式典で、伝統衣装に身を包み誇らしげに自国の国旗を振る生徒たち

ヒント

議論の場として
フォーラムを
開催することで、
活発な
意見交換ができ、
参加者の
継続的かつ積極的な
活動への意欲を
高めます。

です。いったん公認になれば、クラブは会議や広報活動に予算を使うことができるようになります。一回限りの学生会議であっても、課外活動ということで学校(あるいは地方自治体や文部科学省)にお金を申請できるかもしれません。

*訳注:「公認」団体への予算配分については、日本では学校・大学によって制度が異なります。

クラブを宣伝しよう: クラブ活動や課外活動の準備が整ったら、ビラやポスター、アナウンス、口コミで宣伝しましょう。学内掲示板の使用やポスターの掲示、カフェテリアでのテーブルリング(*訳注:ACTION7参照)、授業前の告知、宣伝用のチラシのグッズの配布などを行ってもいかどうか、学校に問い合わせてみましょう。

ミーティングを開こう: 全て準備できたら、一回目のミーティングを開催し、来てくれた人全員を歓迎しましょう。最初のミーティングは、来てくれた人が互いを知り、クラブの趣旨についてざっくばらんに議論するような社交的な場にしたいほうがよいでしょう。もし最初の回に来てくれた人数が少なかったり、初回に来てくれた人がその後来なくなっても気を落としてはいけません。ほとんどのクラブ活動は少ない人数でスタートして大きくなっていくものです。会合を開き続け、クラブの宣伝をし続けければ、そのうち「必要な人数」に達するでしょう。

特別なイベントを開催しよう: グループが大きくなるにつれ、映画の上映会や発表会、講演会、さらに一日あるいは半日かけた学生会議などの特別行事を企画するようになるかもしれません。この本の別の章を読んで、映画の上映会の開き方、プレゼンの仕方、イベントの開催方法、そして話し合いの進め方を学びましょう。

参加してみよう

模擬国連の会議に参加したり、学校のクラス活動で模擬国連を始めることもできます。模擬国連は、「もぎこく」とも呼ばれ、現在の出来事や国際関係にまつわるトピック、外交や国連の議題について参加者が知識を深めることを目標に、国連の実際の会議をみんなでシミュレーションします。多くの学校では課外活動として模擬国連(MUN)を支援しています。もし模擬国連の会議設計に関わることがあれば、話し合う議題に「軍縮」を加えることを検討してみましょう。どうやって模擬国連の会議を設計するかについてもっと情報を得たい人は、UN4MUNのウェブサイト(outreach.un.org/mun)を見てみましょう。

*訳注:日本は模擬国連の活動が活発な国の一つ。
日本模擬国連(JMUN)のウェブサイトは<http://jmun.org/>



ACTION



FACILITATE

A DISCUSSION

話し合いを
司会進行
しよう



3

軍縮および不拡散についての話し合いを司会進行(ファシリテーション)することは楽しいことです。難しい社会問題に取り組むのは、やりがいもあり意味のあるものでしょう。団体やクラブを立ち上げたなら、重要なスキルとして話し合いを進行する能力を身に着けなければなりません。「簡単な」を意味するラテン語のfacilisに由来するfacilitatingは、話し合いや会話が円滑に進むよう手助けするといった意味です。意見のわかれる問題を議論している時でも、参加者全員が議論に貢献し、熱心に議論に参加しているのを確認できれば、話し合いを進行する能力として十分な力がついたと言えます。不拡散や軍縮の問題を話し合う場合、それぞれの見解が異なっていたり、強固な信念を持っている人がいたとしても、司会進行する能力があれば、議論をうまく切り回すことができます。話し合いの進行役を車掌、会話や話し合いを電車と考えてみましょう。進行役(車掌)はコミュニケーションという電車の操縦を助け、次は何という駅に着くのか、すなわち次はどんな議題が話し合われるのか乗客に知らせます。そして、もし遅れ(意見の相違)が生じているならば、車掌の果たすべき仕事は意見を言うのではなく案内することです。簡単なステップをいくつか紹介しましょう。

進行役を選ぼう：進行役を選ぶには、帽子に名札を入れてくじ引きしてもよいですし、やりたい人に名乗り出してもらってもよいでしょう。司会のやり方は簡単に身に付きますし、コミュニケーション管理能力をつける上で重要なスキルです。ただ、もし定期的にグループで集まるのであれば、進行役は持ち回りにした方がよいでしょう。平等に分担した方が、話し合いの過程はずっとよいものになります。進行役の役割は、全員が議論に参加できるようみんなに発言を求め、グループのメンバーを議論に参加する気にさせることです。進行役は時間配分をはっきりと意識し、参加者が発言したいときに発言を求めつつ、一つの議題から次の議題へと話し合いを導きます。進行役の役割は議論されていることに意見を言ったり討論を支配したりすることではありません。実際、司会進行役は、その役割から離れて発言する必要があると判断しない限り、参加者として発言することはありません。優れた司会進行のために不可欠な資質には次のようなものがあります。

- 柔軟に対応できること
- 一方的な判断をしないこと
- 協力的であること
- 聞き上手であること
- 優れたタイムキーパーであること

記録を取ろう：必要であれば、「書記」の希望者も募りましょう。書記もしくはノート係の役割は、会議で起こったことを記録することです。例えば、プロジェクトを進めるための次のステップや、誰が何を担当することになったかなどです。

議題を決めよう：話し合いのはじめに、グループの中で議題を募集しましょう。もし自分たちで計画している映画の上映会などに関する話し合いならば、広報はどうするか、誰が上映場所を選ぶか、Eメールの招待状は送ったかなどを当然議題にしなければならないでしょう。自分たちが読んだ記事や論文について話し合うつもりであれば、議題は話し合いたい論点のリストや、その論点に対して誰が意見を述べたいのかということになるかもしれません。議題を決める方法はたくさんあります。まずは自分が望めば誰でも話し合いに参加する機会を手に入れていることを確認しましょう。



団員の議論を進める
スカウトのリーダー



パレスチナの子どもたちが、不発弾に関して危険意識を持つことの重要性について議論している。

フィッシュボウル法

フィッシュボウル法は、大人数のグループによる議論でも少人数の議論のように感じさせるユニークかつ参加型の討議法です。「フィッシュボウル(金魚鉢)」に入ることによって、参加者は積極的に議論を聴いたり能動的にコミュニケーションを取る訓練ができますし、さまざまな観点をより理解できるようになったという経験をする人もたくさんいます。特に積極的に聴くということは対話の相手に最大限の注意を向けていることだという意味で重要です。

同様に、積極的に議論に参加するということは、聴くのと話すのを交互に行う訓練を実践的に行っていることとなります。フィッシュボウル法は、開かれた活発な議論に参加するというダイナミックな経験の中で、互いに尊重しあい公平なコミュニケーションを取る方法を提供するのです。

フィッシュボウル法の実施方法：教室の机を二つの同心円状に並べてください。内側の円は、金魚鉢の中の魚が泳ぐところです。議論はここですべて行われます。外側の円が金魚鉢のガラスの部分です。ここは観察者が座り、積極的に議論を聴くところです。

グループの人数に合わせて内側の円に参加者用の椅子を用意しましょう。「魚」が5人ならば、7つの席を用意してください。そして、常に参加者が座っている椅子が5つ、空いている椅子が2つになるようにしてください。議論が始まったら、外側の観察者は立ちあがって内側の空いている席に座ることができます。内側は常に5つの椅子に人が座り2つの椅子が空いている状態を保たなければなりませんから、外の人が入ってきたら、金魚鉢の中で議論に参加している人のうちの誰かが立って席を空け、外側の観察者席に移らなければなりません。こうして、参加者と観察者が入れ替わって役割を交代することで、多くの人々が議論に参加することになります。

まとめよう：フィッシュボウル法で議論を行ったら、参加者全員で集まって、このコミュニケーション強化法がどのようにみんなに影響を与えたか、順番に意見を言い、振り返りましょう。

振り返りの議論をするのに役立つ質問：

- 議論の参加者から観察者、つまり魚から金魚鉢の観察者へとスムーズに移動ができましたか？
- 驚くような発言を聴いたり、あるいは他の人を驚かせるような発言を自分がしたりしましたか？
- この経験から得られたことを一つ挙げてください。

議論のタイムテーブルと議題について決めよう：メンバーそれぞれに予定があるので、ミーティングのスケジュールをきちんと決め、個々の議題にかかる時間を決めておくことが重要です。すぐに配分時間を決められる部分もあるでしょう。最初のウォーミングアップの部分は、たとえば10分、と簡単に決められます。しかし、ミーティングの主な内容がブレインストーミングや討論ならば、適切に時間を割り振らなければなりません。議題とタイムテーブルはグループ全体で決めるということを頭に入れておきましょう。つまりメンバー全員が、希望があれば自分の意見を取り入れてもらえるのです。

アイスブレイクから始めよう：どの回も何らかのアイスブレイク(打ち解けあうためのウォーミングアップ)から始めるのが有益です。例えば好きな食べ物や好きな場所といったものを一人ひとり順番に話してもらおうなどです。このように簡単にストレートなウォーミングアップで、参加者はリラックスすることができます。

議題の持ち越しについて：ミーティングが予定より長く続いた場合、司会は延長していいか聞きましょう。もし、みんなが同意するなら、議論を延長して結論を出しましょう。同意がなされなければ、話し終わらなかった議題は次の会議まで持ち越すことができます。持ち越された議題は保留となり、次の機会に取り上げられることになります。

知って いましたか？

100か国以上の
1,200を超える企業が
小型武器製造に
何らかの形で
関わっています。

核に関する用語集(ママ)

良い点と悪い点：仲間のことを知ろう

本文で挙げたもののほかに、「良い点と悪い点」とよばれるエクササイズがあります。これもミーティングの最初に行うことができるものです。参加者は1-2分でそれぞれ何かうまくいっていること(良い点)と、うまくいっていないこと(悪い点)を話します。あまり時間がかからずに意見を共有できる方法ですが、これによって、みんなは不満を口にすることができます。そしていったん口にしてしまえば、その不満は収まることが多いです。この方法は、よくいっしょに活動する学生たちにとってとくに有益なエクササイズです。ただし短時間で行うこと、時間をきちんと決めてそれを守ることを忘れないでください。

次のミーティングの日時を決め、進行役を選びましょう：次のミーティングの日時は、ミーティング中に決めておくのが最良です。このほうが、授業の間の休憩時間に廊下で集まって話そうとしたり、電話やEメールで連絡を取ろうとしたりするよりもはるかに簡単です。みんなが集まっているときに次回の話し合いの日時と場所を決めてしましましょう。次の進行役を選んでおくのもよいことです。その人が責任をもって議題を募り、会議前にミーティングの確認連絡をメンバーに送ってくれるでしょう。

クールダウンのエクササイズでミーティングを終えよう：時間があれば、短い時間でできるエクササイズをしてからミーティングを終了しましょう。これを入れることで、グループのエネルギーを、このミーティングで得られた成果に集中させることができます。このミーティングで自分が何を学んだか「一人ずつ順番に」考えて話してもらいましょう。

これでみなさんは話し合いの進行方法を理解し、創造的な話し合いの進行の例としてフィッシュボウル法を知ったと思いますので、核兵器や小型武器問題の議論で使える導入的なテーマを紹介しておきます。国際連合サイバースクールバス (www.un.org/Pubs/CyberSchoolBus/) の

ウェブサイトで、軍縮および不拡散教育の概要ページを見れば、さらにいろいろな議題の例を探すことができます。

核兵器

- 不拡散と完全軍縮の違いは何でしょう。
- 国連加盟国の中に不拡散に賛成の国と完全軍縮に賛成の国があるのはなぜでしょう。
- なぜ核兵器を開発したがる国があるのでしょうか。
- 核兵器を保有している国はどこでしょう。
- 核兵器の開発と使用を防ぐために存在する国際条約は何でしょう。
- 完全な核軍縮は可能でしょうか。
- 核兵器の保有をやめた国は今までにありますか。

小型武器

- 銃規制と軍縮の違いは何でしょうか。
- 軍隊と警察だけが小型武器を持っているのでしょうか。
- 違法な武器はどこから来るのでしょうか。
- なぜ人々は銃を持ちたがるのでしょうか。
- どのような違法行為が違法な武器の取引と関係していることが多いのでしょうか。
- 世界中のすべての小型武器の備蓄が厳重に保管されているのでしょうか。
- 小型武器による暴力の犠牲者は誰でしょうか。
- 小型武器による暴力を抑制するために国際連合によってどのような対策がなされているのでしょうか。
- 軽兵器を管理し悪の手に落ちることを防ぐために国際社会はどのような方法をとることができるのでしょうか。
- 小型兵器の合法的取引と違法な取引の違いは何でしょうか。



ヒント

グループでの話し合いを進める方法にはいろいろなものがあります。フィッシュボウル法は司会役がいなくても議論を「促進できる」優れた方法でしょう。

人間の安全保障とは何でしょうか。

人間の安全保障とは

暴力紛争がないというだけではありません。

この概念には、人権、グッド・ガバナンス、

経済機会・教育・保健医療への

アクセスが含まれています。

そして、「恐怖からの自由」と

「欠乏からの自由」の両方に

包括的に取り組む概念であり、

「保護」と「能力強化」の両方を

重視する枠組みに基づいています。

国際連合人道問題調整事務所ウェブサイト ◀

(bit.ly/MryhW4) より





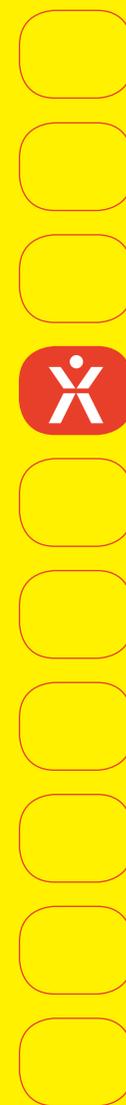
4

ACTION

EXPRESS

YOURSELF

考えを
発信しよう



4

学生が自分の考えを発信し、自分の意見を聞いてもらう方法はいくらでも存在します。特に武器の拡散やそれにとまなう暴力といった非常に重要なトピックについては、みなさんには考えを主張する権利があります。より詳細な情報が得られるような有益なリンクをそえて、みなさんにいくつか提案をしたいと思います。メッセージを伝えるには、自身の個人的な関心や独創性にあう表現方法を選択するだけでなく、対象とする聴衆や彼らのニーズ、置かれている環境などを考慮するよう意識するのがよいでしょう。現在若者が自己表現できるオンライン上のガイドはたくさんあります。例えば Adobe Youth Voices (youthvoices.adobe.com) はビデオ、マルチメディア、ウェブデザイン、アニメーション、そして音声作品を用いていかに自己表現するかについて、広範囲をカバーしてくれるガイドです。

あなたの声を届けるための魅力的な方法をご紹介します。

ラジオ：軍縮について意見を表明するのに非常に有効な手段として、ローカルラジオを使うという選択肢があります。ラジオといっても色々やり方がありますが、多くの大学がキャンパスからラジオ番組を放送しているので、大学のキャンパス内のラジオ局で活動していくのも一つでしょう。コミュニティラジオも広く普及しているだけでなく人気が高いので、優れた方法だと言えます。他には重要な社会問題についてインターネットで放送を配信するラジオ局を探してみても良いかもしれません。どんな種類のラジオにせよ、今現在あるトーク番組に問い合わせて、若者の参加が可能かどうか尋ねてみましょう。ときには若い人たちをラジオの特派員へと育てることに主眼をおいたプロジェクトもあります。自分の身の周りにそうした機会がないか探してみましょう！

多くのトーク番組は面白い話題を探しています。あなたの企画したイベントに地方局のプロデューサーを呼んで、人脈をつくっておきましょう。あなたの団体にプロデューサーが興味をもってくれたら、プロジェクトについてのインタビューを放送してくれないか頼んでみましょう。電話インタビューでもよいのですが、ローカルのラジオ番組ではゲストをスタジオに招くことがよくあります。自分がインタビューするだけでなく、近くにいる軍縮・不拡散の専門家や、銃による暴力や核兵器によって人生が左右された人々へのインタビューをセッティングするのもよいでしょう。こうした問題に直に関わっている人が身の周りにたくさんいることに、あなたはきっと驚くはずで、個人の体験を語ることで、より聴衆に訴えかける番組になるでしょう。

より詳しく制作の方針を理解するため、ラジオ局についての情報集めは必ずやりましょう。また原稿を準備するために、インタビューの時間はどれくらいの長さなのかプロデューサーに聞いておきましょう。必要ならば手元にデータや資料を用意しておき、また、リスナーがさらに情報を得られるようなリソースをまとめておきましょう。実際にインタビューする前に練習しておくとうまくいきますし、前置きと結語は簡潔にまとめるとよいです。はっきりゆっくりと話すことを意識して、プレゼンテーションを印象付けるちょっとしたキャッチフレーズを入れてもよいかもしれません。

ラジオ番組では生番組でリスナーをスタジオに入れることも多く、これが面白い効果を生むこともあります。ただし反対意見の人を攻



日本の広島・長崎両都市に原子爆弾が落とされたことを記念するピースラリーにフェイスペインティングをほどこして参加した学生



レバノンの町ヒニヤで、
国連の中国部隊が地雷除去中に
発見した不発弾(UXL)の一部

撃しないように、また、人前で発言したのを後悔するようなことは言わないよう気をつけましょう。話すときは気を落ち着けて冷静に、ユーモアを交え、そして、なんでも知っているかのような振りをしないことです。最後に、あなたは若者全体を代表しているのですから、今議論されている特定の軍縮問題に集中して、論点をずらさないように気を付けましょう。

トーク番組に参加するという形である必要はありません。社会問題について報じるラジオ番組が作れるよう学生に指導してくれる、先進的なメディアがあるので活用してみましょう。WNYC傘下のRadio Rookiesはニューヨークの公共のラジオ局で、若者が放送制作を行っています。もしあなたの住む地域にこういうものがなければ、きっと良い見本になるでしょう。1学期間のワークショップで、学生たちは自分自身、自分の生活するコミュニティ、そしてより広い世界についてのストーリーを書けるようにトレーニングを受けます。学生たちはラジオジャーナリズムの基本をここで学びます。それには、アイデアを膨らませてストーリーを作る方法から、ストーリーに関する調査、台本書き、場所の選定、環境音の録音、インタビューの実施、編集、そして最終版を作品として放送するところまで網羅されています。なおRadio Rookies (www.wnyc.org/shows/rookies) のドキュメンタリーはオンラインで聞くことができます。

ビデオ：軍縮を進める上で効果的なのは自分でビデオを撮るなど視覚に訴える作品を作ることです。ビデオ作りというのは、撮影し、編集し、独自の短編映画に仕上げるといことです。ビデオのデータは小さくて安いカメラからでも簡単にコンピュータに移すことができます。パワフルで心を動かす映像の中には、たまたまその場その時に居合わせたために撮影することができたアマチュアによる作品もあります。

どのようにビデオを作るかもっと知りたければ、Witness (www.witness.org) のサポートガイドや資料を見てみましょう。Witnessとはビデオによるアドボカシーを専門とする人権団体です。Witnessはニューヨークに拠点を置いており、オンラインで制作に関するトレーニングもしてくれます。もし自分のビデオを作りたいのなら、きちんとした設備と時間、それに手伝ってくれる仲間が必要です。ほかの人々と作品を共有したり、幅広く視聴者にダウンロードしてもらえるよ

う、ポッドキャストやブログを作ってもよいでしょう(その際、作った動画があらゆる人に受け入れてもらえるものなのか確認しましょう)。テーマへのとっつきやすさが鍵となります。他のメディア同様、発信したい相手は誰で、どのようなメッセージであるべきか、そして自分が対象としたい人々にメッセージを伝える最も効果的な方法はなにかを常に意識しておきましょう。

短編映画ができれば、作品を他人と共有できる場を探しましょう。YouTubeやVimeoでは無料でビデオをアップロードし、より広く世界規模で共有することができます。審査や選考のある映画祭を探しているなら、Media That Matters Film Festivalがあります。社会、環境、平和などの重大な問題に焦点を当てた、オンライン上の短編映画祭です。その中に若者の作った短編映画だけを集めた部門があります。出品された作品の中には兵器による暴力に焦点を当てたものもいくつかあります。各映画12分以内で様式も内容もアニメからミュージックビデオ、ドキュメンタリーにいたるまで様々です。10年以上も続いています。この映画祭は世界中の若いインディペンデントの映画製作者を変わず魅了し続けています。その多くは21歳未満です。優れた、人々の心を掴む作品は見る人を行動に移させ、社会変化のきっかけになりうるという理念に基づいて、この映画祭は開かれています。

ポスターおよび掲示板：みなさんの学校にもおそらく軍縮と不拡散に関連する問題を取り上げるための多くの選択肢があるはず。ポスターをデザインしたり、壁画を作ったり、掲示板を装飾するなどです。ポスターは軍縮に関する様々な話題を届けることができ、また自分の考えをうまく、華やかにそして簡単に伝えることができます。ポスターは教室内でそろってしまうような限られた材料で作れます。どこから手をつけていいか、また考えを発信するのに最適なデザインが何かわからなければ、インターネット上には初心者も助けてくれるリソースがたくさんあります。このサイトが初心者には最適です：www.ncsu.edu/project/posters

Tシャツ：若者はよく自己表現の道具として服やボタン、バッジ、そしてとりわけTシャツを用います。独特なデザインのものにはメッセージをうまく反映し、グループ内に連帯感を生み、学生の組織にとっては

ヒント

国連事務総長や
軍縮の専門家、
あるいは著名人の
言葉は、
あなたの
メッセージに
力を与えてくれます。

核に関する用語集

ビキニ型水着：1946年にフランス人服飾デザイナー、ルイ・レアールが上下に分かれた形の水着を発表した。レアールは、アメリカ政府が大気中で水爆実験を行った南太平洋のビキニ環礁に因んでこの水着をビキニと命名した。この有名で、当時は衝撃的なものであった水着は、文字通り環礁を真っ二つに引き裂いた水爆実験の結果の産物であった。水爆実験はレアールにインスピレーションを与え、この型の水着は今でも人気がある。

資金集めに効果的な方法となります。独自のデザインであれば、オンライン上のガイドにしたがって簡単に作ることができます。オーダーメイドのTシャツづくりを支援してくれるサイトはいくつもあります。身近なものを探しましょう。自分で描いた絵やイラストをアップロードして、近所のプリントスタジオでオリジナルプリントTシャツを作成するとよいでしょう。以前Tシャツを作ったことのある身近な団体に、どこでTシャツを作ったのかを聞いてみるのもよい方法です。

重要なのは、多くの服や靴、その他の衣料品は、雇用形態が危険で、違法でさえありうる低賃金・悪条件の工場で生産されていることを考慮に入れておくことです。場合によっては、労働者がわずかな生活賃金しか稼げないのに、束縛された環境で強制的に長時間働かされていることもあります。さらにそうした工場は子供を雇っていることで知られています。これは児童労働法に違反し若者の生命を脅かすものです。ですからできるだけ倫理を守っている組織からTシャツを仕入れ、また環境への影響が少ないオーガニックコットンを使うことまで考えることができればなおよいでしょう。

デジタル・ストーリーテリング：デジタル・ストーリーテリングというのは、写真や自分で作ったアートワーク、文章、ビデオなどを、話し言葉、詩、音楽といった音源とつなげた作品を指す新しい言葉です。コンピュータの技術的な知識がそれほどたくさん必要なくてもありませんし、また人に見たり聞いたりしてもらえるレベルの作品をつくれるようになるために役立つウェブサイトがたくさんあります。The

Center for Digital Storytelling (storycenter.org/stories)には学生たちが自分の生活や自分たちが起こった問題について作成した物語が集められています。様々なメディアを使いこなせば、自分だけのデジタル・ストーリーテリングが作れます。ただ、もしインターネットで見つけた既存の画像や文書を使いたいのであれば、必ず正しい形で引用し、使用許可をとりましょう。正確な出典がなければ、あなたの作品は盗作だとみなされてしまいます。

- デジタル写真を使ってスライドショーにするには、**Microsoft Photo Story 3**のソフトをダウンロードしましょう。写真で綴る物語に特殊効果や音響、自分の声によるナレーションを加えられます (bit.ly/1ik1iOL)。
- **Windows Movie Maker**は、プロに匹敵するようなタイトル、転換、効果、音楽、ナレーションまで備えており、自分のパソコンでホームビデオやスライドショーが作れます (bit.ly/1aoBIYV)。
- **iMovie for Mac**では、すべてのビデオクリップを簡単に1か所に集めることができ、それを使ってHDビデオや予告編を作ることができます。プロジェクトをより質の高いものにするために、プロの作った様々なテンプレートやエフェクトを選んで使ってみましょう (<http://www.apple.com/mac/imovie/>)。
- **Adobe Photoshop**にはデジタル画像を編集したり公開したりするのに必要な全てのものがそろっています (adobe.ly/LvnsBC)。

インターネットには画像やビデオクリップを探してダウンロードできるサイトが数多くあります。初心者には次の二つをお勧めしましょう。小型武器関連ならば**IANSA (国際小型武器行動ネットワーク)**:<http://www.iansa.org/>で“media”アーカイブを、核兵器問題なら**The Bomb Project** (bit.ly/1frrFdV)をチェックしてみましょう。

ブログ：ブログは、身近な仲間内でも世界中の人々とも話を共有したり知識を広げたりできるメディアとして、ここ数年人気が増えています。ブログでは通常、トピックは一つに絞られ、学術的にも私的にも使うことができますが、両方の側面を持つもののほうが説得性が高まるでしょう。ブログは匿名で利用する事もできますし、自分や共同執筆者の名



ソマリアのモガディシュ郊外の安全な場所で破壊処理されたアル・シャバブから押収された200キログラムを越す不発弾(UXO)

知って いましたか？

およそ390億米ドルから
540億米ドルあれば、
2015年までに世界中の
極度の貧困と飢餓を
半分に減らすことが
できると試算されています。
この金額は、年間の
軍事支出の世界総額の
わずか2.6～3.7%分です。

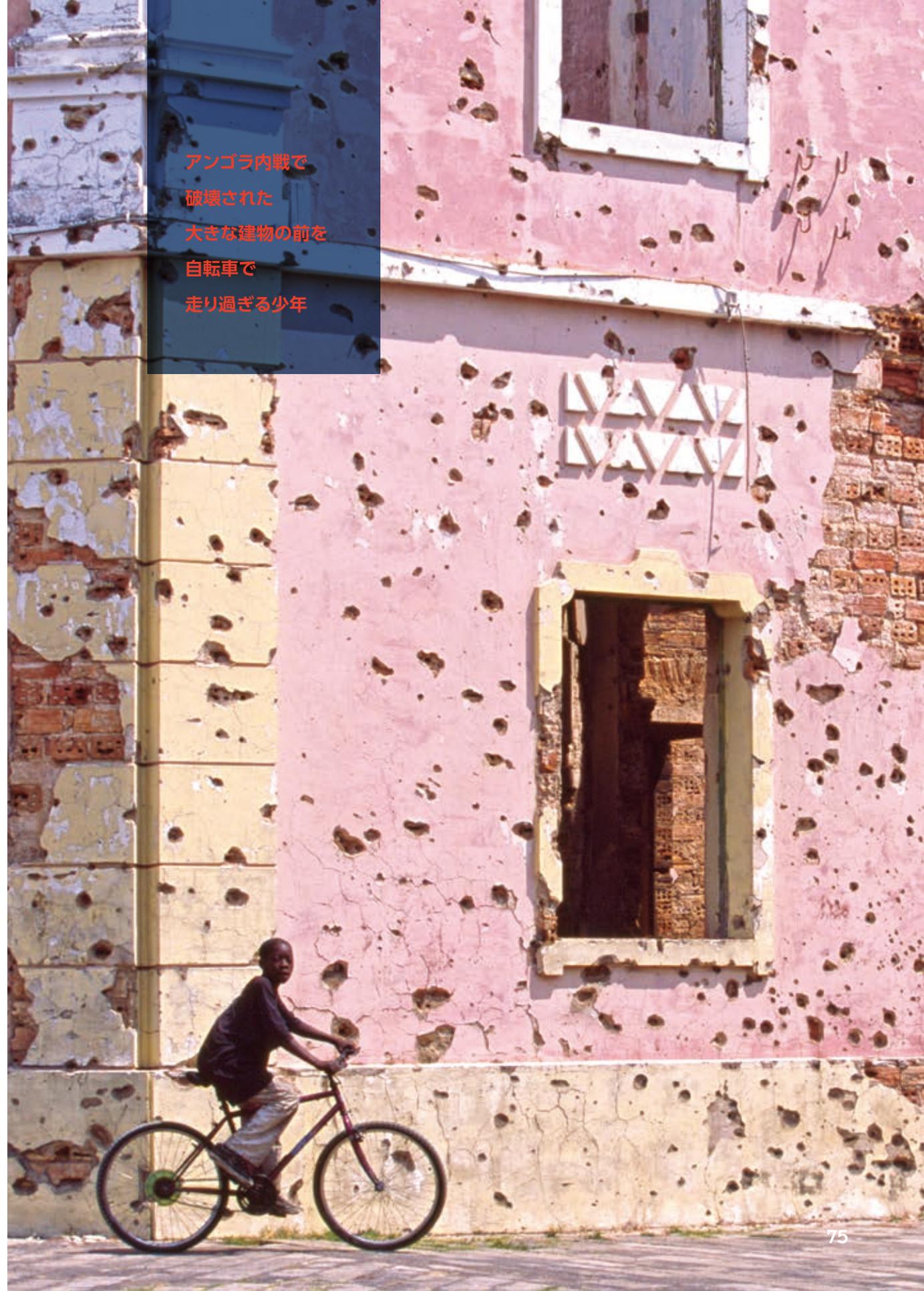
前を出して利用することもできます。記事はFacebookをはじめ様々なウェブサイトに投稿できます。最近のブログ用サイトの中で人気を集めているのはbloggerとwordpressで、ここではユーザー名、トピック、ブログのアドレスなどを選べば、自分だけのサイトを作ることができます。テンプレートが用意されているので、あまりウェブデザインの知識がなくてもブログを作成することができます。小型武器や軍縮についてのブログは以下のサイトで見るすることができます。

- 小型兵器についてのブログ: wordpress.com/tag/small-arms
- 核軍縮についてのブログ:
bit.ly/1n8L7Eb
Disarmamentactivist.org
- 核兵器と小型武器に関するUNIDIRのブログ:
www.disarmamentinsight.blogspot.com

オンラインで送れるカードや絵葉書：オリジナルのイラストや自分で撮った写真を使ったり、インターネット上で利用できる画像を探したりして、独創的なカードをデザインするのもよいでしょう。カードが商用ではなく教育目的であれば、インターネット上で見つけた写真を使うこともできます。ただし画像の使用許可を得て、指示に従ってください。

文章とイメージの組み合わせ方で、批判的な内容のものも、肯定的・否定的両方の意味に取れるようなものも作ることができます。武器不拡散への関心を喚起するためには、独創性とアクティビズムを組み合わせるようなものがよいでしょう。一方で、カードは政治家に接触する際に有効な手段でもあります。手書きのはがきを議員に送って、自分の意見を伝えたり、軍縮のための行動を促すという方法があります。オフィス用品店でインクジェットプリンター用のはがきサイズ用の紙が売られていますし、自分の画像やデザインをアップロードしてオリジナルのポストカードを作ることができるオンラインのサイトもたくさんあります。このようなサービスを提供している店がある地域もあります。インターネットで、はがき作成を請け負っているサイトが自分の住んでいる場所の近くにはないかどうか探してみましょう。あるいははがき印刷を手助けしてくれる地域組織に協力してもらうのもよいでしょう。

アンゴラ内戦で
破壊された
大きな建物の前を
自転車で
走り過ぎる少年





5

ACTION

HOST

A FILM
SCREENING

上映会を
開こう



5

核兵器や小型武器の拡散とジレンマをテーマにした映画を上映することは、人々の関心をこの問題に向け、議論を呼び起こし、行動に向かわせる有効な方法です。映画上映は単発のイベントとして開くこともできますし、何度かにわけてシリーズで行うこともできます。学校で催されたり地域組織が主催する若者向けの映画祭に加えて、最近では移動式の映画祭も数多く開催されています。これらの映画祭では長編映画、ドキュメンタリー映画、そして若者によって制作された短いビデオエッセイなども上映されています。映画祭を主催するには、毎年行われている映画祭と契約したり、自分で小規模な映画上映シリーズを組むといった方法があります。人権や社会的正義に関する問題も扱う若者向けの有名な移動式の映画祭には、高校生を対象とするヒューマン・ライツ・ウォッチ映画祭 (ff.hrw.org) や、Media That Matters映画祭 (www.mediathatmattersfest.org) などがあります。

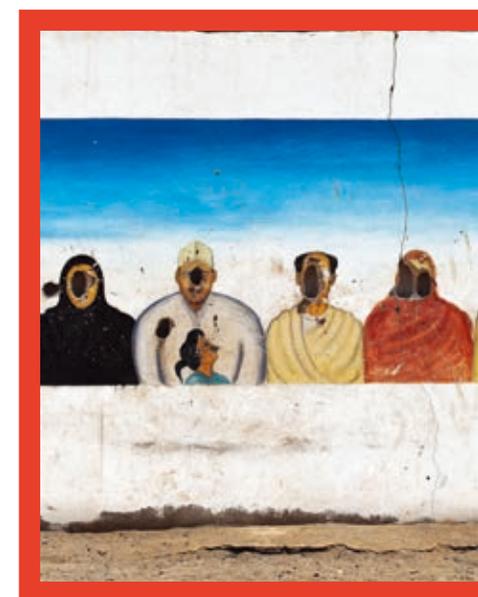
この本は小型武器と核兵器に焦点を当てているため、ここで推奨している映画はそれをテーマとした作品です。暴力や武器が描かれていたり関連したりする映画は数多くありますが、武器そのものを主題としているものは実は非常に少ないのです。ここで紹介する映画は、武器に関する映画のうちのほんの一部です。武器の拡散をテーマとする映画をほかに知っていればリストに加えてみてください。掲載されている映画の多くは地域の図書館などで簡単に借りられます。もし借りられない場合は制作会社に連絡して直接借りたり購入したりすることもできます。映画祭を開催することは楽しく、魅力的なことです。それでは実際に始めるための手順を見ていきましょう。

仲間を集めよう：映画の上映会を開こうと思っているということを友達に伝え、興味を持ってくれた人たちで集まってチームを作りましょう。もしかすると上映会の企画・運営を、授業の追加単位として認めもらえるかもしれません。そうすると、他の学生たちに参加してもらいやすくなるでしょう。とはいえ、映画を見に行くのが好きな人はたくさんいますから、あなたの計画に乗ってくれる人を集めるのは難しくはないはずです。開催する目途がいたら仲間に連絡を取って、ミーティングの日時を決めましょう。

会場を探そう：自分の学校でも地域の映画館でもよいですが、最初にするべきことは会場を見つけることです。上映のための機材を借りる際には、先生にサポートをお願いしてみましょう。

近くの人に協力してもらおう：地域の映画館に、上映会に興味を持って協力してくれそうな人がいないか調べてみましょう。学外の会場や機材につてがあって、協力的な大人を探すというのも手です。そうすれば地域の人を巻き込むことができ、より多くの人に来場してもらうことができるでしょう。話を聞いたりインタビューをしたりする能力を活かして、地域の人々にも輪を広げ、何が起こるか試してみましょう！

上映会を宣伝しよう：宣伝するにはいろいろな方法があります。校内にポスターを貼ったり、チラシを配ったり、自分たちが主催したほかのイベントで集めたメーリングリストに案内を送ったり、あるいは授業の前に簡単に告知するといったこともできるでしょう。上映会のさうとう前から広報活動を始め、映画を観たいと思ってもらえるように気を付けてください。口コミでの宣伝が最も効果を生むというケースが多いのです。



大人たちと子どもが描かれた絵が、弾丸があけた穴で損傷してしまっている。イエメン南部の湾岸都市アデン郊外のバサティーン難民居住区付近で。



現地のNGOピバ・リオによって
リオデジャネイロで行われた
弾薬買い取りキャンペーンで
2001年に回収された弾薬

上映会で配る資料を作成しよう：来場してくれた学生たちに、何か持ち帰ってもらえるような資料があるとよいでしょう。映画に関する記事を引用したり、行動につなげるためのアイデア、もしくはより詳しい情報にアクセスするためのウェブサイトの一覧だけでも構わないので、配布資料を作りましょう。参加者に上映会のあとも話題にしようするための格好の材料になります。

連絡先を集めよう：将来のイベントにつなげるため、参加者に紙を回してメールアドレスを書いてもらうとよいでしょう。これはテキストメッセージキャンペーン(ACTION10参照)にも活用することができます。

映画の後にディスカッションを準備しよう：司会進行役を決めて、上映後のディスカッションの導入となるような問いをいくつか準備しておきましょう。質疑応答を行うにあたって、可能であれば軍縮についての専門家やNGO関係者、または映画製作者ご本人などを招くとよいでしょう。いろいろと工夫してみてください。フロアの人たちに発言してもらう時間を忘れずに設けましょう。

推薦映画リスト：以下に、小型武器や核兵器に関する興味深い映画のリストを掲載します。小型武器による暴力のまん延についてはよく知られている映画の中にも描かれていますので、これらの映画を観るときには、軍縮を進めるために有効な3つのポイントに着目するとよいでしょう。それは、「人が銃を持ちたがる理由」「小型武器の合法的な取り引きと非合法的な取り引き」「世界に存在する武器の現状」です。これによって、どのような方向性で映画を観ればよいかわかります。例えば、選んだ映画は「人はなぜ銃を欲するか」という問いに関係しそうですね。それとも武器の売り買いに関するものでしょうか。核兵器に関する映画の場合は、古い映画と新しい映画の両方を必ずレビューするようにしましょう。冷戦期と現在で政治環境がどのように変わったかについて参加者に発言してもらうというのは、有益な戦略の一つです。また、核抑止の語られ方がどのように変化したかと参加者に尋ねるのもよいでしょう。新しい映画も古い映画もありますが、以下に挙げる映画を上映することは、軍縮及び不拡散の問題を広義の教育・学習の中に位置づける魅力的な手段となります。上映会を通じて参加者にこのテーマについてもっと知りたいという気持ちを持ってもらうことができますし、それが行動に移すためのエネルギーを生み出すことになるのです。

小型武器についての推奨映画(制作年順)

American Gun (2005年)：アリック・アヴェリーノ監督。IFCフィルム。銃がアメリカ社会——最上級に裕福な地区であっても——で起こしうる悲劇について追求する現代劇。銃販売店の店長、学校の校長、そして10代で殺人を犯した子供をもつ母親のそれぞれを追って、興味深いストーリーが展開される。アメリカでの銃の拡散についての詳細な検討につながる。より詳しくはリンク先へ www.americangun-movie.com *訳注:日本未公開。

LORD OF WAR (2005年)：アンドリュー・ニコル監督。ライオンズゲート。アメリカに行ったウクライナの移民が世界を股にかけて小火器、特にロシアのライフルAK-47を密売することで財産を築く。国際武器商人の実態にかなりの程度基づいており、武器のもたらす影響と、合法・非合法の国際的な武器売買が生々しく描かれている。より詳しくはリンク先へ www.lordofwarthemovie.com

*訳注:日本では「ロード・オブ・ウォー——史上最強の武器商人とよばれた男」のタイトルで2005年に公開。

BULLETS IN THE HOOD: A BED-STUY STORY (2004年)：テレンス・フィッシャー、ダニエル・ハワード監督。ダウントウン・コミュニティ・テレビジョン(DCTV)。ブルックリンのベッドフォード=スタイベサントに住む10代の少年、テレンス・フィッシャーは、友人が警官に撃たれてしまうのを目撃する。他にも多くの地元の10代の若者たちが射殺されていることを知り、テレンスはダウントウン・コミュニティ・テレビジョン(DCTV)が若者向けに開催しているドキュメンタリーメディア講座に通いながら、この事態にビデオカメラで応えることにする。テレンスがクラスメートのダニエル・ハワードとともに作成したこの映画は、都会の銃犯罪についてのプライベートなストーリーで、社会的に行動を起こしメディアで表現することによって悲劇や痛みを前向きに折り合いをつけてゆく方法を示している。より詳しくはリンク先へ bit.ly/MIX0FH *訳注:日本でもイベント等で上映歴あり。

GUNS & MOTHERS (2004年)：トム・パワーズ監督、イカロスフィルム。Million MomsとSecond Amendment Sistersという二つのNGOは、銃規制に関して真反対の立場だが、ある一点については意見を同じくしている。それは、アメリカで銃規制の方針を決定する際には母親が声を上げるであろうし、またそうすべきであるとい



一人の少年が
収監されているナイジェリアの
少年刑務所の壁に絵を描く。
タバコを吸いながら
自動小銃を撃つ男性が
描かれている。

知って いましたか？

基本的に
すべてのモノについては
国境を越える移動に
規制がかけられていますが、
小型武器については
2013年になって
ようやく国際社会が規制に
合意しました。

う点である。このドキュメンタリーは、2000年の同じ日にワシントンD.C.で行われたMillion MomマーチとSecond Amendment Sistersによるそれへの反対集会から始まり、1年にわたって撮影が続けられた。2つの異なる「アメリカ」に住んでいる2人の女性に焦点を当てることで、双方の運動に参加する市民の信念を探るものである。より詳しくはリンク先へ to.pbs.org/1fXLIGC *訳注:日本未公開。

BOWLING FOR COLUMBINE (2002年) : マイケル・ムーア監督。MGM。アメリカで銃犯罪が頻発する根本原因についてのドキュメンタリー映画で、アカデミー賞を受賞する一方、物議をかもした映画である。ムーアは、コロラド州デンバー近くのコロンバイン高校で起こった校内殺人など立て続けに起こったいくつかの衝撃的な事件をとり上げて、銃規制に影響を与えるものは何かを探る。より詳しくはリンク先へ www.bowlingforcolumbine.com

*訳注:日本では『ボウリング・フォー・コロンバイン』のタイトルで2003年に公開。

YOUNG GUNZ (1997年) : 教育ビデオセンターの映画製作ワークショップに参加した若者が監督を務めた。ニューヨークの若者に焦点を当てた22分の短編映画で、銃犯罪の犠牲者と、人を射殺したことを認める人々についての印象深いストーリーである。より詳しくはリンク先へ www.evc.org/content/young-gunz *訳注:日本未公開。

LA HAINE (HATE) (1996年) : マチュー・カソヴィッツ監督。クライテリオン・コレクション。パリの「バンリュウ(郊外)」で3人の若い移民が銃を見つけた週末のできごとを描いた非常に深刻で衝撃的なストーリーである。La Haineは現代フランス映画において画期的な作品で、パリの最貧困地区でくすぶっている社会的疎外感、若者と地元警察の間で今も続く人種上の緊張関係、そして銃を手にしたときにすぐに下さなければならない倫理的な決断という問題をとらえている。より詳しくはリンク先へ <http://www.criterion.com/films/216>

*訳注:日本では『憎しみ』のタイトルで1996年に公開。

核兵器についての推奨映画(制作年順)

THE STRANGEST DREAM (2009年) : エリック・ベドナルスキ監督。カナダ国立映画制作庁。第二次世界大戦中に米国政府によっ

て行われた原子爆弾製造のためのマンハッタン計画から離脱した唯一の科学者である原子力物理学者ジョセフ・ロートブラットを描いた印象的な作品。ロートブラットは1995年に、自ら創設した「科学と世界の諸問題に関するパグウォッシュ会議」と共にノーベル平和賞を受賞した。この映画は今日の核を取り巻く現状と、核軍縮に精力的に取り組む科学者や市民たちの姿にもスポットを当てている。より詳しくはリンク先へ www3.nfb.ca/webextension/strangest-dream

*訳注:日本では日本平和学会等でイベント上映されている。

WHITE LIGHT / BLACK RAIN (2007年) : スティーヴン・オカザキ監督。HBO。これまでほぼ口を閉ざしてきた14名の被爆者と、広島・長崎への原爆投下に関わった4人の科学者へのインタビューを通して、原爆投下の実態と彼らのその後に迫る。次々と語られる個人的な体験に引き込まれるうちに、想像をはるかに超えた人々の苦しみと、困難から立ち上がるその驚くべき強さが明らかになる。より詳しくはリンク先へ bit.ly/1jbRqtA

*訳注:日本では『ヒロシマ・ナガサキ』のタイトルで2007年公開。

「黒い雨」(BLACK RAIN) (1989年) : 今村昌平監督。今村プロダクション。原作は井伏鱒二の同名小説。1945年に原爆を投下された広島で生き抜こうとする人間の姿を描いた非常に印象的な作品である。数々の賞を受賞した本作品は、美学的にも目を見張るほどの美しさで原爆投下後の生活を描き出している。めちゃめちゃにされた人生を修復しようとする一方で放射能による後遺症に苦しむ被爆者たちを赤裸々に映し出す。より詳しくはリンク先へ bit.ly/1d8hRvZ

THREADS (1984年) : ミック・ジャクソン監督。BBC。核戦争と、それに巻き込まれたイギリスの都市シェフィールドをドキュメンタリータッチで描き出した、背筋の凍るテレビドラマ。アメリカとソ連の間の政治的緊張が高まるさなかの、2組のイギリスの家族の描写から映画は始まる。イギリスが戦争に向けて準備を進める中、2つの家族はそれぞれ家庭内でのめめごとに追われる。第二幕はシェフィールドの地方議会の議長を中心に展開し、イギリス政府が戦争の準備を継続中であることがわかる。東西の軍事同盟間で戦争が勃発し、イギリスが核攻撃を受ける中、必死に生き抜こうとする登場人物たちの凄惨な姿が詳細に映し出される。物語は、核戦争とその後続く「核の冬」が医療、経済、社会、そして環境がもたらした結果に直面し、翻弄されるそれぞれの家族の運

知って いましたか？

武器による暴力で
亡くなる人は
年間74万人以上。
そのうち49万人が
伝統的な
紛争地帯以外の
場所で亡くなっています。

核に関する用語集

OVERKILL (核兵器による必要以上の破壊力) : 核爆発の巨大な力を表現する核に関する専門的用語。核爆弾は破壊するだけでなく過剰殺傷する。言い換えれば、すべてを破壊するのに必要な力よりも、大きな力を持っているということ。現在では「過剰である」と同義で用いられる。例: 「宿題はoverkillだ」

命を描きだす。より詳しくはリンク先へ bbc.in/1eNU5WI

*訳注: 日本では1984年にテレビ東京で放映されたことがある。『核戦争後の未来・スレッズ』という邦題で、VHSビデオが販売されていた。

『はだしのゲン』(1983年) : 真崎守監督。マッドハウス。原作は世界的に有名な中沢啓治原作の同名の漫画。原子爆弾が落とされたあとの広島に生きる人々の生活を一人の子供の視点から描く。原爆による破壊を乗り越えた国の魂を映し出し、生き残った人々のたくましさや伝えている。より詳しくはリンク先へ bit.ly/1doRb5W

DARK CIRCLE (1983年) : ジュディ・アーヴィング、クリス・ビーバー、ルース・ランディ監督。ペリカン・メディア。サンダンス映画祭大賞、国際エミー賞ニュース&ドキュメンタリー部門を受賞。コロラドのロッキーフラッツ核兵器製造施設から、カリフォルニアのディアブロ・キャニオン原子力発電所、そして広島と長崎へとプルトニウムがたどった軌跡を追う。世界で最も有毒な物質であるプルトニウムがこれらの場所と、生活を変えることを余儀なくされた人々の人生を結びつける。より詳しくはリンク先へ bit.ly/1nOk2cO

*訳注: 日本では『ダーク・サークル/忍びよるプルトニウム汚染』のタイトルでテレビ放送されたことがある。VHSビデオが販売されていた。

ATOMIC CAFÉ (1982年) : ジェーン・ローダー、ケヴィン・ラファティ、ピアース・ラファティ監督。アーカイブプロジェクト。1950年代のアメリカのプロパガンダ映像を集めてつなげた作品で、時に滑稽でありながら、時に現実を突きつけるような作品である。古い教育映画から抜粋したものも含まれている。たとえばウォルト・ディズ

ニーの *Duck and Cover* が紹介されているが、ここでは小学校の子どもたちが、皆で一斉に壁に寄ってうずくまることだけで核攻撃から身を守ることができると教えられている。また別の場面では、人間(皮膚の構成が豚と似ていると言われている)が核攻撃による厳しい状況に耐えられるかを試すのに、核実験の間、「爆心地」として設定された場所に軍隊の制服を着せた豚の群れを放置し、死なせてしまう様子が映し出される。この映画の主題は、原子力爆弾に関して政府が流していたプロパガンダを明らかにすることにある。より詳しくはリンク先へ nyti.ms/1aZleXF

*訳注: 日本では『アトミックカフェ』のタイトルで1983年公開。

THE WAR GAME (1965年) : ピーター・ワトキンス監督。BBC。50分の白黒映画。ソ連のイギリスに対する核攻撃という架空の出来事について、その前兆から、爆撃後の数週間を描く。まず、都市の住民が地方に強制的に疎開させられる中で、忍び寄る核攻撃の気配を感じ始めて混乱に陥る人々が描かれる。続いてストーリーは、RAF マンストン空軍基地とメードストンの兵舎を狙ったミサイルが狙いを外れて誤って攻撃したケント州のロチェスター市に移る。ミサイルの爆発は、それを見ていた人々を一瞬で失明させ、熱風による火災旋風を発生させて爆風を巻き起こす。その後、放射能による後遺症、精神的なダメージ、そしてインフラの破壊などにより社会は崩壊していく。食糧暴動が起きて、警官は略奪した人を撃ち、イギリス軍は死体を焼く。より詳しくはリンク先へ pwatkins.mnsi.net/warGame.htm

DR. STRANGELOVE OR: HOW I LEARNED TO STOP WORRYING AND LOVE THE BOMB (1964年) : スタンリー・キューブリック監督。コロンビア映画。核抑止の愚かさを風刺するダークコメディ。ストーリーの中心は、精神に異常をきたし、ソ連に対する核の先制攻撃を命じたアメリカ空軍の司令官である。大統領や大統領顧問、統合参謀本部、そしてイギリス空軍将校らは、核による大惨事を回避するために爆撃機に攻撃停止命令を送ろうと右往左往して事態は混乱する。一方カメラは、核爆弾を投下地点まで運ぼうとする一機のB-52爆撃機の乗組員の様子も映し出す。この映画は、1989年にアメリカ議会図書館によって「文化的に重要」と認定され、アメリカ国立フィルム登録簿に登録された。より詳しくはリンク先へ bit.ly/1gcj4DC

*訳注: 日本では『博士の異常な愛情 または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか』のタイトルで公開。



上映会に
来てくれた人たちと
上映会後も
交流できるように
SNS上で
グループを作り、
上映会の際に
来場者に
そのページへの
参加を
呼びかけましょう。
次の上映会の
企画につながる
情報を得るための、
とても有益な
方法です。



ACTION

VOICE

YOUR

CONCERN

意見を
訴えよう



6

核兵器の拡散、小型武器の違法取り引き、そして武器や戦争によって引き起こされる暴力について、あなたの問題意識を周りに伝えることは基本的な権利であるとみなされています。世界人権宣言と国連憲章の双方が、表現の自由を促進しています。民主主義において表現の自由は非常に重要で、選挙で選ばれた議員は有権者の声に耳を傾けることが義務として求められます。選ばれた議員は国民を代表して票を投じます。これらの票には国民の意見が反映されているのです。議員たちは、国民からの多様な意見を聞くことで情報を得るのです。みなさんの声はとても重要なのです！

議員と連絡をとるにはたくさん方法があります。最も一般的なのは手紙です。ほとんどの手紙は議員やその事務所のスタッフに丁寧に読まれます。議員が受け取った手紙の総数(いわゆるメールカウント)によって、その議員が立場を変えることもよくあります。昨今では多くの議員がウェブサイトを持っていますから、Eメールを送るというのも有効です。とくに事案が審議中であり、タイミングを逃したくない場合にはメールが効果的です。さらに、メールはバーチャルな文書と同じですから有効な記録となります。自身のブログを持っていて、市民がコメントできるような双方向の交流の場として利用している政治家もいます。電話もまた、みなさんの問題意識を共有するのに重要な手段になりうるでしょう。政治家に直接話すことができないとしても、事務所のスタッフが電話に出て話を聞き、記録を取っておいてくれるでしょう。話そうと思っている案件を担当している秘書に電話をつないでくれるように頼むのを忘れないようにしてください。議員を直接訪ねることもできます。政治家は、市民から陳情を受けるための予約時間を特別にあげてあることもありますし、誰でも立ち寄って意見を言うことができる予約不要な訪問受け入れ時間を設けている人もいます。

市民が政策提言(アドボカシー)を議員に対して行う場合、いくつか共通する戦略があります。次に挙げるのは、不拡散と軍縮に限らずどのようなアドボカシーを行う場合でも考慮に入れておくべき5つの一般的なガイドラインです。

簡潔に：短く簡潔に意見を述べるよう心がけましょう。手紙の場合ならば、1ページに収めましょう。一度に伝える情報は1つに絞りましょう。口頭で伝える場合は、必要不可欠な情報のみを2,3点に絞って話しましょう。意見陳情のために個人的に訪問した場合でも、与えられた短い時間に対して情報をつめこみすぎないようにすることは、とても重要なことです。どんな場合でも共通していえるのは、あなたが問題に思っていることを明確に述べ、簡潔に要点をあげ、自分の意見を補強するような資料があれば提示し、そしてもし自分の伝えたいことが特定の法律に関係することであれば、それがどの法律かを明示し、その法律があなた自身やあなたの地域社会にどれほど影響するかということを強調しましょう。

正確に：議員はどんな時でも、取り組まなければならないことがたくさんあります。ですから、簡潔で正確な情報を伝えましょう。手紙や面会の目的は最初にはっきりと述べましょう。その問題についてしっかりと把握しておきましょう。とくに言及すべき法律があるなら、正し



世界中で子どもを含むたくさんの民間人が地雷によって手足を失っている

知って いましたか？

第一次世界大戦で
亡くなった兵士は850万人、
犠牲になった市民は
1千万人です。
第二次世界大戦では
550万人の人が亡くなりました。
20世紀後半には、
武力紛争で600万人から
1千万人の人が
亡くなっています。

くその法律を示し、それについてどのような行動を取ってほしいと主張しにきたのかをはっきりと伝えましょう。直接その法律にかかわるような経験をしていれば、あなたの意見に対する信頼性が高まります。

礼儀正しく：その議員を支持していても支持していなくても、常に礼儀正しく接するべきです。政治的な提言をするために議員にアクセスしたのですから、その議員が様々な選択肢を考えられる状況を作らなければなりません。直接会うのならば、声を荒げることなく常に辛抱強くありましょう。遠慮せず具体的な質問をぶつけましょう。ある問題について議員がどのように考えているかといったことも、尋ねてもよいのです。反対に、自分がその問題について取っている立場を議員から尋ねられたときのために、答えを用意しておきましょう。最後に議員に対し、あなたの意見を考慮するのに時間を割いてくれたことに感謝の意を伝えましょう。

フォローアップしよう：自分の連絡先を議員または事務所のスタッフに渡してから帰りましょう。あなたがその議員の選挙区の有権者である場合は特にこれは重要なことです。連絡先を残しておけば、議員はあなたに対してフォローアップをすることができますし、あなたの側にもフォローアップをする責任があります。お礼の手紙を書き、その中で、対話中に出てきた大事な点をなぞり、議員が何か約束してくれたならそれを再確認し、あなたの提言を補強する追加資料を入れて、送りましょう。

関係を築こう：議員があなたの立場を支持してくれているかどうかに限らず、定期的に連絡を取ることは非常に有益です。変化を起こしたいならば、議員のような公職にある人と関係を築くことは不可欠です。アドボカシーというのは、自分の立場を発展・維持することを含めた継続的な対話という一連のプロセスです。議員やそのスタッフの中であなたの提言に関わる仕事を担当している人との間に、きちんと機能する関係を構築してゆくことは、アドボカシーを行う人にとって不可欠なことです。議員が行動に迫られたときに、あなたが築いてきた関係が、その決断に影響することになります。成功するカギは、自分の意見を聞いてもらえるようなネットワークを築き、常に礼儀正しくしておくことです。

手紙を書いてみよう：ここまで示したガイドラインをふまえて、短く礼儀正しい手紙を書いてみましょう。導入部分には目的を明確に書き、次に、自分がそのような立場を主張する理由をいくつか示し、最低一つは自分の議論を擁護するような典拠を挙げて、そして行動に移すよう呼びかけまし

よう。自分の連絡先を書くのを忘れないようにしてください。小型武器の拡散と、核軍縮に関する手紙のサンプルを後のページに掲載します。

国際連合武器貿易条約(ATT)の 発効に関わるステップ概要

ステップ1：ATTの各条項は2013年4月の国連総会で採択されました。採択されたからといってその場で条約が発効するわけではないということを頭の中に入れておくことは重要です。条約が法的拘束力を持つようになるためには、各国がそれぞれの国内法にしたがって批准をする必要があります。

ステップ2：条約が採択された後、一定期間の間、条約は各国による署名に付されることとなります。ATTは発行するまでの間、どの国でも署名することができます。発効後でも、国連に対してATTを遵守する意志を伝えることでその国は加盟が可能です。条約への署名は、国の元首または外務大臣、あるいは大使のように署名する権限を与えられている人が行います。署名の際には、条約に向かう機運を高め、世界に注目してもらうために盛大な式典を行うことがよくあります。署名をすると、その国はその条約の法的拘束力下に入る意志があるとみなされます。

ステップ3：国家は、批准が終わるまでの間は条約に法的に拘束されることはありません。条約の批准のためには、国内法の中に条約の条項に矛盾するものがないかどうかを判定しなければなりません。条約と国内法の間には矛盾がある場合は、矛盾を取り除くために国内法を修正する必要があります。いうまでもなく、これにはそれなりの時間がかかります。そのため、批准手続に期限が設けられていることはほとんどありません。

ステップ4：条約が批准されると、政府は批准書と呼ばれるものを寄託します。ATTの場合、批准書は国連事務総長に対して寄託されることになっています。

ステップ5：どの条約にも、何か国が批准書を寄託すればその条約が発効するかが定められています。ATTでは、発効には50か国以上の批准が必要です。



議員にコンタクトを取る前に、自分の議論の中で最も説得力が高いのはどれかを特定しておきましょう。そしてその議論を、自分のメッセージ全体を伝えるために使しましょう

手紙 1：武器貿易条約

この手紙は、当該国が武器貿易条約に署名していてもしていなくても使えるように構成してあります。
自分の国が ATT に調印・批准しているかどうか、www.un.org/disarmament/ATT で確認しましょう。

(名前) 議員

私たちは世界における武器貿易について勉強している(学校名および所在地)の学生のグループです。

▶ オプション A：あなたの国が ATT に署名していない場合

私たちは、自分たちの国がまだ武器貿易条約に署名していないことに驚きました。国家間で無制限に行われる武器貿易は多くの問題を引き起こします。武器は容易に紛争を激化させ、人権侵害の道具となります。武器は貧しい人たちに食料を送るのを妨げ、難民支援をしている人々を危険にさらし、子どもたちと市民に恐怖を与えます。このような事態は止めなければならず、(名前) 議員は現状を変える力を持っていらっしゃいます。国際的な武器貿易を責任あるものにする武器貿易条約に、私たちは、ぜひ(名前) 議員に署名していただきたいと思っています。

▶ オプション B：あなたの国が ATT に署名している場合

ATT 署名国として、(名前) 議員には、他の国連加盟国に対してご自身に倣って署名するよう促していただきたいと考えています。武器貿易条約は世界の武器貿易を責任あるものにします。そして世界中で人の命を救います。

▶ 以下はどちらの場合にも適用可

私たちが学んだことの一つは、多くの武器が最初は国家間で合法的に取引されたにもかかわらず最終的には武器密売人に転売されてしまい、それら密売人は不法に銃器を紛争地に送っているということです。また、不法に売られた小型武器が犯罪者の手にわたることもあります。過剰な武器の備蓄によって死に至る暴力が増え、今後何年も続く深刻な問題を残しているということが、いくつかの研究で指摘されています。

小型武器および軽兵器に関連する死者の数は多く、これはとても悲惨なことですので、私たちは行動を起こすことにしました。無責任な武器取引に目を向け、議員の方に武器貿易条約を支持していただくために手紙を書く活動を始めました。どうか私たちの活動に賛同して、他の議員の方々に世界で何が起きているのかを伝えていただけないでしょうか。そうすればその議員の方々にも武器貿易に関連する暴力撲滅に向けて行動していただけるでしょう。

もし、ご不明な点がございましたら、電話(電話番号)。または手紙(住所)をいただければ幸いです。私たちは武器貿易の制限のための活動をやり遂げるつもりです。世界をより平和にしたいと思っています。ご精読ありがとうございました。

(名前) 高校

(氏名)

手紙 2：核兵器

この手紙は核拡散防止条約(NPT)に焦点を当てています。ここでは核保有国の学生用と、そうでない国の学生用に、二つのバージョンを用意しました。NPTは核不拡散と核軍縮を目的とした、法的拘束力のある唯一の国際的な合意です。NPTに加盟していない大国が3か国あります。インド、イスラエル、パキスタンです。朝鮮民主主義人民共和国も2003年にNPTからの脱退を宣言し、法的な立場が不明確です。あなたがNPTに参加していない国にいるなら、以下の手紙の例を使い、適切な国会議員を選んで手紙を送るとよいでしょう。

(名前) 議員

私たちは核拡散防止条約(NPT)について勉強している(学校名および所在地)の学生のグループで、NPTの第6条の履行がどれだけ進んでいるのか疑問に思っています。第6条では次のように述べられています。

「各締約国は、核軍備競争の早期の停止及び核軍備の縮小に関する効果的な措置につき、並びに厳重かつ効果的な国際管理の下における全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について、誠実に交渉を行うことを約束する。」

▶ オプション A：あなたの国が核兵器を保有している場合

私たちの国は核兵器撤廃に向けてどのような取り組みをしているのでしょうか。

▶ オプション B：あなたの国が核兵器を保有していない場合

私たちの国は核保有国に対して、核兵器撤廃を要求するのに何をしていますのでしょうか。

▶ 以下はどちらの場合にも適用可

私たちは、世界は核兵器がなくなればより平和になると信じています。国連事務総長によれば、核兵器は気候変動と並んで、人類にとって最も大きな脅威です。潘基文事務総長は核軍縮の履行にむけて5つの計画を提案しました。5つのうちの1つは、核保有国がNPTの第6条に従うことです。

私たちは、完全な核兵器撤廃は難しく、時間がかかることを理解しています。しかし、その目標に向けて迅速な行動が取られることを期待しています。私たちは、核拡散の危険への関心を呼びかけるため、学校で勉強会を始めました。次のミーティングで、この手紙に対する(名前) 議員からのお返事内容について議論したいと考えています。

もし、ご不明な点がございましたら、電話(電話番号)。または手紙(住所)をいただければ幸いです。世界の運命は、核軍縮を推進し、私たちが生きている間に実現させる事のできる、あなたのような権力を持つ人々の手にかかっています。

(名前) 高校

(氏名)



ACTION

CREATE

AN EVENT

イベントを
開催しよう



7

軍縮を推進するための活動は、しばしば公開のイベントを開くことで盛り上がります。タイミング良くイベントを開くことで、問題意識を広げるための情報を広めたり、内容は異なっても関連性のある問題を明示したり、社会的な動きに人々を巻き込んだり、プロジェクトのための資金を調達したり、興味を持っているグループ同士のネットワークをつくったり、重要な問題を可視化したり、開催予定のイベントについて宣伝したりできますし、同時に、社会を変える力になりうる人材になるように人々を教育したりトレーニングしたりすることもできます。

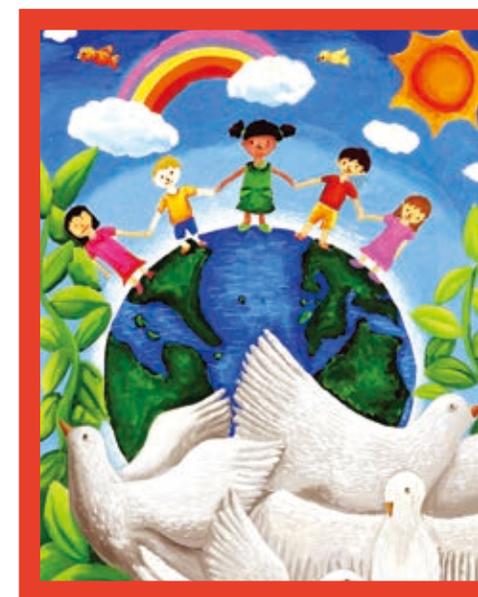
次に示すのは、教育機関で実施できるさまざまなイベントです。しっかり計画が練られたイベントは、達成目標、より広い最終目標、対象とする聴衆、メッセージ、人的資金的リソース、挑戦、戦略、評価といった様々な項目からなる全体的な方策を含んでいます。

テーブルリング：不拡散や軍縮に注目を集める方法の一つは、パブリックスペースにテーブルを出して人々と話し、関連する情報を広めることです。このような活動をテーブルリングといいます。昼休みのカフェテリアや学校の廊下はテーブルリングに最適な場所です。テーブルリングのためのセットアップをする際には、学校から必ず許可を得ましょう。歩道も効果的な場所でしょう。もう一度確認ですが、許可が必要とされるような公共の場にテーブルをセットアップするならば、必ず前もって許可を取りましょう。多くの歩行者が一日何度も通りかかるような公共の場所を探しておくことが重要です。垂れ幕を作ったり大きな文字で厚紙にレタリングして、自分たちが提示するトピックや自分たちで考えたメッセージを掲げ、目立つようにしておきましょう。同じ場所で別のグループもテーブルリングしている場合は、とくに目立たせることが重要になってきます。

テーブルには学生や、その問題について知識を持っているアドボケイト(アドボカシーを行う人)に座ってもらいましょう。情報を共有し、質問に答え、問題について意見を交換し、様々な視点について議論し、他の人に知ってもらうこと、どれをとってもテーブルで行うことができる重要な活動です。ですから、軍縮および不拡散に関してさまざまなテーマで勉強しておくことを勧めます。学生や一般の参加者に持ち帰ってもらえるような資料を置いておくことも重要です。

持ち帰り用資料には、リーフレット、ファクトシート、ビラ、ポストカード、あるいは、軍縮の問題や重要な事実、みんなに勧めたい活動などを盛り込んだ一枚紙の資料などが考えられます。テーブルリングが成功すれば、次のイベントにつながります。追加の資料を送ったり今後のイベントの情報を伝えるために連絡先などを書いてもらうコンタクトシートとあわせて、今後の活動予定や、活動のために知っておくべき軍縮関連の日程表も、配布用に用意しておきましょう。

ティーチイン(teach-in)：学校でのイベント取組は、ティーチインが中心となることが多いです。このようなイベントは、通常前もって企画され、日時と場所が公表されています。このようなイベントでは、議論への導入として、学校の先生や外部の講演者がプレゼンテーションを行ったり、軍縮問題についてのビデオやショートフィルムを上映したりします。ティーチインは、パネルディスカッションやディベート、あるいは学校の友だちに情報提供をするためのワークショップなどでも構成することができます。学生自身がスピーチをしてもよいでしょう。「ACTION9:プレゼンテーションをしよう」を参照してください。



「アート・フォー・ピース」コンテストは、国際連合軍縮部とハーモニー・フォー・ピース財団によって主催されている。核兵器のない世界、爆弾が存在しない世界、戦争や恐怖のない世界を自由な発想で描いた作品を、子どもたちに制作してもらった。この絵画はマレーシアのヤン・リンさん(12歳)の作品(unartforpeace.org/)。

知って いましたか？

ヒップホップは
1980年代にニューヨークの
ブロンクスで誕生しました。
これはギャングどうしの抗争の
独創的解決方法として
利用されていました。
貧困や機会不足による
暴力にうんざりしていた
若者たちは、
ブレイクダンスや
ビートボックス、
ラップといった
生身の能力を…

右ページにつづく

デモや集会：デモや集会は、軍縮のための戦略への支持を表明するメッセージを掲げて公共の場に集まることです。デモは自然発生することもあります。集会は通常、計画的に行われます。デモや、とくに集会は、公共の場に人々が物理的に集まって行われますが、バーチャルな公共空間であるインターネット上でも行われることがあります。

参加者たちは、自分が運動にどのようにかかわっているかを周りに知らせたり、社会の関心を高めたり、より大きな社会の動きを擁護したり、不正に抗議したり、自分の意見を聞いてもらったり、人々に変化を求めてもらうために、平和的で暴力を使わないデモや集会を行います。暴力を使わず破壊もしない抗議行動は、最も説得力を持つのです。デモや集会で抗議行動を行う方式は、集合、宣言、基調演説、プロテストソング、嘆願書の配布、活動家の芸術作品の展示、変化を求めるシュプレヒコールというものです。デモで提示したメッセージはより多くの人々、メディア、政治指導者、そしてその問題に苦しんでいる人々に届くでしょう。

祈り (vigil)：通常、vigilというのは夜間に行う静かなイベントです。伝統的には宗教的な忠誠や恭順を示すものとして行われてきました。今日では、応援したり、政治的な団結を示したり、悲劇的な出来事を悼んだり、追悼の意を表すために行われています。祈りを行う際には、その祈りのイベントや、あるいはもっと大きな問題に注目してもらうため、象徴的にロウソクに火をともしることがよくあります。武力による暴力や戦争の犠牲者を偲ぶ祈りのかたちで、多くの軍縮のイベントが行われています。このようなイベントを、毎年9月21日に行われる国連国際平和デーや、広島・長崎での原爆を忘れないために毎年8月6日と9日に行われる平和への祈りのような象徴的な日に開催日を合わせて開くのもよいでしょう。

行進：社会的活動に関連した行進は、何らかの理由に基づいて人々が整然と同じ方向に歩くことを言います。政治的な行進は、米国でマーティン・ルーサー・キング牧師によって率いられた公民権運動の際の有名な行進や、インドでマハトマ・ガンディーによって率いられた「塩の行進」など、長く多様な歴史を持っています。核軍縮や銃による暴力の防止、社会的に注目された悲劇的な事件を記念して、これまでも従来から行進が行われてきました。

看板や横断幕などを持って行進すれば、イベントはとても印象的なものになるでしょう。行進しながら音楽を演奏したり歌を歌ったりす

ることもあります。戦争や武力紛争で亡くなった人たちの家族写真のような個人を記念するものを持って行進したり、メッセージを伝えるために象徴的な服装をすることもあります。秩序だった行進は、広い範囲にメッセージを伝えるための強力な手段になり得ます。行進に途中から参入する人もいます。この方法は、軍縮のキャンペーンに参加する新しい唱道者を集める効果的な手段となりえるでしょう。その行進を良く思わない場所や争いがいつ起こってもおかしくない地域を通ることがあるかもしれませんが、非暴力の示威行動はいつも最も効果的なものなのです。

コンサートやパフォーマンス：軍縮や不拡散の問題に注目してもらうのに良いもうひとつの方法は、コンサート、詩や名言の朗読、演劇やダンスパフォーマンスを用いたものです。社会活動と芸術の組み合わせというのは昔からあったもので、しばしばメディアの注目を集めるために使われてきましたし、そして問題に関心を持つ人々の集まりをつくるためのもうひとつの方法でもあります。

ブラジルのリオデジャネイロでは、リオの中でトップクラスのヒップホップグループが毎月行っているアーバン・コネクション (Urban Connections) という無料のコンサートがあります。参加しているヒップホップグループは毎回異なるファベアラ (スラム) に集まり、自分たちの街の非暴力や平和、小型武器の削減について、コンサートを見に来たスラムの人たちと直接話します。若い人たちが集まって芸術に関する催しを開くことで、自分たちの運動の目標を達成に近づけたり、軍縮において重要な問題を聴衆に伝えたりすることが出来るのです。

街頭演劇も軍縮問題について広く観客に知らせるのに効果的です。その名が示すとおり、街頭演劇は普通屋外の公共の場所で、多くの場合無料で行われるパフォーマンスです。演劇は公園や街角や学校の駐車場のよう、交通を妨害せず、許可を得られる場所で行ってもよいでしょう。街頭演劇は、計画されたデモやブロックパーティー (通りを閉鎖したうえで住民によって開かれる祭り) や祭りとともに行うこともできます。上演するために、グループを作り、伝えたいことについて思いつくまにアイデアを出し合ひましょう。台本を書き、服装や小道具はごく簡単なものにしておくのを忘れないでください。なぜなら舞台裏も舞台も路上に設置することになるからです。

カナダのトロントには「子供のための平和シアター (Children's Peace Theater)」という劇場があり、若者たちが自分の独創性と思

左ページからのつづき

…見せることで
「戦う」方法を
ヒップホップによって、
手に入れたのです。
このような紛争解決は、
文化における革命となりました。
一時はヒップホップと
その音楽が鎮めようとした
ギャングによる暴力が、
のちにヒップホップと
結びついてしまったとはいえ、
音楽やダンスは
人々や地域コミュニティを
統合するのに
成功したのです。

核に関する用語集

臨界質量：連続核反応の維持のために必要とされる核分裂物質の最小量のこと。
今日では活動を始めたり維持したりするために必要な最小の量をさすために使われることもある。

いやりで紛争を解決することを決心できるよう、平和創造と演劇を結び付けて活動しています。演劇はたくさんの観客を呼び込むことができ、そして軍縮についての教育の手段として見ると、キャストと観客の両方が学び成長することができます。

スポーツイベント：武器の拡散への関心を喚起する方法として、スポーツイベントは力強い手段です。不拡散や軍縮をマニフェストとして、ランナーに参加してもらうロードレースや、夏の夜に開催するバスケットボールリーグ、ビーチバレーのトーナメント戦、サッカーの試合を行うといったことができます。ロンドンにはファイト・フォー・ピースというプロジェクトがあり、ボクシング教室で若い男女がボクシングを習いながら人権について学んでいます。東欧では、第二次世界大戦後も対立していた国をむすぶピースレースという自転車のシリーズレースが1948年に始まりました。レースは今でも毎年行われており、国境を越えた対話を生む手段となっています。冷戦期にはとくに大きな役割を果たしました。スポーツイベントは、メディアや地域の人々の関心を喚起する可能性を持っています。また、団結心を持って健康的な活動をしているときには、軍縮に向けた取り組みについて考えることができるという前向きなメッセージを伝えることにもなります。

学校でセレモニーを開こう：国連サイバースクールバス (www.un.org/Pubs/CyberSchoolBus/) は、軍縮・不拡散教育のための一連の授業やワークショップを開発してきました。そのカリキュラムを使って勉強しているクラスで、成果を評価するための特別なセレモニーを開くという方法があります。新たに得た知見を学校の掲示板に貼り出したり、他のクラスの人たちを最終プレゼンテーションに招くなどです。

導入されているのが調査研究のプロジェクトならば、学校全体で集会を行い、より多くの学生や教員に参加してもらって、そこで研究発表を行ってもよいでしょう。学んだことを学校全体に共有すれば、別のクラスの学生から質問をもらえるかもしれません。つまり、カリキュラムを受けている学生たちは、社会を変えるための自分たちの発見やアイデアを他の学生たちと共有することができ、また、軍縮のためにいっしょに活動してくれる学生たちを新たに募集することもできるのです。

インターネット上でイベントを開こう：インターネットを使って広報をしたり、あるいはネット上でイベントを行ったりすることが、コミュニケーションやアウトリーチ活動において盛んになってきています。さまざまなソーシャルネットワークサイトや、ブログ、ツイッターなどでイベントを開くことができます。これによって幅広い人々にあなたの運動に参加してもらうことができ、小型武器や核軍縮に関する情報を世界中に拡散することができます。こうしたサイトでグループやイベントを開く利点の一つは、あなたが広報できる可能性のある人が非常にたくさんいるということです。偶然あなたのグループを見つけてくれる人がいるかもしれないし、あなたがウェブサイトで直接探してメンバーを募ることができます。いずれの方法でも、オンライン上で世界中の人々に見てもらえる可能性がありますし、自分と同じ問題に興味を持ち活動している仲間をいろいろな国につくったりすることができるでしょう。インターネット上でイベントを始めるには、Action 10を参照してください。

軍縮キャンペーンを始めよう：NGOは、政治家や軍縮の専門家、関心を持っている市民社会の人たちと連携して、よく計画された軍縮キャンペーンを行っています。一方で、若者たちも、自分たちで軍縮キャンペーンを始めています。1997年には、ブラジルのサンパウロの大学生がSou da Paz (www.soudapaz.org) として知られる、すばらしい自発的武器回収キャンペーンを行いました。3か月で彼らは地元のNGOと協力して3,500もの小型武器を集めました。これまでの軍縮キャンペーンについて、ぜひ調べてみてください。

小武器についてのたくさんのキャンペーンに関しては国際小型武器行動ネットワーク (www.iansa.org) で、核軍縮に関しては核兵器廃絶国際キャンペーン (www.icanw.org) で知ることができます。あなたが自分のキャンペーンで使うことのできるような資料を、これらのサイトやそのほかのサイトで探してみましょう。



ヒント

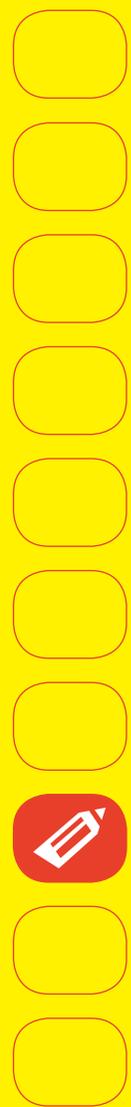
イベントを円滑に進めるために、企画段階で協力してくれる友達を集め、みんなが参加できるように役割を分担し責任を持ってもらいましょう。イベントに参加する人たちのメールアドレスを忘れずに教えてもらいましょう。そうすることで、その人たちが興味を持ってくれそうな今後の活動についての情報を送ることができます。



ACTION

SIGN UP

署名しよう



8

社会運動は適切なかたちで行動を起こしたときに最も成功に結びつきます。この行動とは、核兵器や小型武器および軽兵器についてあなたが知っていることを上手く使って変革を唱えることです。行動を起こす重要な方法の一つは、より大きな声を集団で上げられるように、他の人といっしょに行うというものです。ほかの人を物理的に動員してデモや集会、行進、ティーチンなどを行うこともできます。しかし嘆願書に署名してもらうことによって、人々をバーチャルに動員することもできるのです。

嘆願書とは、ある特定の問題について何らかの行動を求める人々の住所と氏名を一覧表にしたものです。その問題に賛成する人の名前が書かれた長いリストを見れば、議員は市民を代表して動かねばならないという気持ちになるでしょう。実際、正式な嘆願書がなければ特定の法に関して動くことをしない国もあります。たとえば、1982年に行われた第2回国連軍縮特別総会の際に、核軍縮に賛同する人々2,900万人分の署名をNGOが集め、国際連合に届けました。2003年にはブラジルのNGOが100万人以上の署名を集め、その結果、より強い銃規制法ができました。

嘆願書に署名をすることは比較的単純なことです。署名する際には、自分が何に署名しようとしているのかをきちんと理解しておく必要があります。ほとんどの場合、嘆願書にはその政策提言キャンペーンの性格について説明をするリード文がついています。自分で嘆願書を読んでみて、内容が理解できない場合は署名してはいけません。また、その問題に関心がない場合も、問題に関する情報を十分身に付けるまではサインをするのを控えましょう。しかし、嘆願書を本当に理解して、署名したいと思うならば、署名してもいいでしょう。

嘆願書の立場に同意したなら、指定の場所に自身の名前を記入しましょう。ほとんどの嘆願書には名前と住所を書き入れる欄があります。その嘆願書が法律の制定に関わるものであるならば、嘆願書に住所と氏名を書き込むことは重要です。それによって議員たちが、地理的に区分けされた自分の選挙区の有権者がその問題についてどのように考えているかを知ることができるからです。ミリオン・フェイスとI LOVE キャンペーンは興味深い署名活動の成功例です。一つは小型武器、もう一つは核軍縮に関する署名活動でした。

ミリオン・フェイス(100万人の顔署名)：2003年、アムネスティ・インターナショナルと国際小型武器行動ネットワーク(INASA)、オックスファム・インターナショナルは共同でコントロール・アームズと呼ばれる世界的なキャンペーンを創設しました。このキャンペーンは世界50か国で始動し、大きくメディアの関心を引きました。コントロール・アームズの目標は、武器貿易条約のために国家間でサポートできるような体制を構築することです。このキャンペーンは、各国に、国内および地域で軍備管理に関する法や協定を整備し、強化し、実施するように促しました。また、NGOのグループと各国政府の間に小型



国際連合の支援による南スーダンのジュバでの武装解除の提言活動

ヒント

できる限り
たくさんの人に
アクセスしたいならば、
ネット署名から
初めてみては
どうでしょう。
Change.orgは
ネット署名を
掲載することができる
フリーの
オンラインサービスの
一例です。

武器の需要と供給を減らすためのパートナーシップを構築することに尽力しました。

コントロール・アームズ (www.controlarms.org) のウェブサイトには、今後のイベントやニュース、ファクトシート、メディアの記事、調査研究や報告書、それにたくさんの関連リンクが掲載されています。彼らの政策提言キャンペーンのうち、代表的なものひとつがミリオン・フェイスで、この活動では署名の代わりに顔写真が使われています。このキャンペーンの目標は、コントロール・アームズ・キャンペーンを支持してくれる人の顔写真を、世界中から100万人分集めることで、この目標はすでに達成されています。すでに終わったキャンペーンですが、人々を巻き込む独創的な方法であり、今後のキャンペーンにとって良いモデルとなっています。今はどのようなキャンペーンが行われているか、ウェブサイトをチェックしてみましょう。

I LOVE キャンペーン: 一方、より地域的で小さいレベルでは日本の長崎の高校生の団体の活動があります。彼らは核軍縮のために署名活動に取り組んでいます。毎年この団体から代表がジュネーブの国際連合で開催される軍縮会議を訪問し、集めた署名を軍縮会議の日本政府代表部大使に提出しています。

署名活動は長崎で十年以上前に始まりましたが、五年前から彼らはI LOVEキャンペーンという活動を始めました。彼らはポストカードを作りました。そのカードには、Love (愛) を表す赤い大きなハートの横に英語の大文字でI (私) と書かれており、そしてその横には何も書かれていないスペースがあります。核兵器に反対する嘆願書に署名する代わりに、彼らはシンプルなかたちで、人々に自分が大好きなものを書いてもらえるようにしたのです。

大好きな場所や物を人々に連想させる作業は、核軍縮への取組を続けてゆこうという気持ちにさせてくれるのではないのでしょうか。核兵器に反対する署名を求める代わりに、高校生たちは人々に自分の愛する物や人のために署名をしてくれることを求めているのです。長崎の高校生の署名活動では、変化を起こすのは人々が恐れているものではなく、人々が大好きなものなのです。ところであなたは何が好きですか？

アフリカの内戦では
非常にたくさんの
子ども兵士が
動員されてきた





ACTION

PLAN

A PRESENTATION

プレゼン
テーションを
しよう



9

国連軍縮部 (UNODA) のウェブサイト (www.un.org/disarmament) には、軍縮や不拡散についてのプレゼンテーションを考えるのに役立つ文書がたくさんあります。国連職員によるスピーチを見てみてください。自分にとって何が最も重要なのかを判断する最初のポイントとして、そのスピーチを使いましょう。スピーチというのは、躍動感があり、話し言葉で書かれているという点で、興味深い記録文書です。

プレゼンテーションを作成して発表することはとても楽しいですし、主題についてより深く学ぶことにつながり、自分の考えを聞き手と共有することができます。この章で挙げるのはどのようにスピーチを書き、プレゼンテーションを行うかについてのヒントです。

テーマを選び、調べよう：発表を行うにあたって最も重要なことは、自分が信念と熱意を持って取り組むことができる何かを探すことです。選んだテーマに関する最新のニュースや最近の調査報告について知ることも重要です。勉強すればするほど、プレゼンテーションを行う準備ができてゆきます。例えば、小型武器というのは大きなテーマですが、国際小型武器行動ネットワーク (www.iansa.org) のポータルサイトを見て、小型武器に関する重要な課題のうちどれに焦点を当ててプレゼンテーションするかを選ぶことができます。また、地域的な問題について発表するならば、IANSAのサイトで地域を選ぶこともできます。特定の問題に焦点を絞れば絞るほど、効果的な発表をすることができます。ですから、第一段階は、テーマを選び勉強することです。ACTION 1で挙げた、軍縮と不拡散について調べることのできる資料のリストを参考にしましょう。

プレゼンテーションの計画を立てよう：テーマを決め、プレゼンテーションのためにできる限り調べたら、次にプレゼンテーションの計画を立てましょう。良いプレゼンテーションには、主張を支える強いポイントがいくつかあります。テーマを探すときは、扱いやすいいくつかの要素に「分解する」ことができるテーマを選びましょう。本質的かつ簡潔であることが重要です。言い換えれば、良いプレゼンテーションには大事なポイントを裏付ける深みがあるのです。しかし、同じことを繰り返したり、多くのことを扱いすぎたりしないようにしましょう。

調べるときには、全てのインターネット上の情報が信用できるものではないこと、時には事実ですらないということに注意しましょう。調べるにあたっては、情報源を見て、元の文章にあたってみるのが重要です。研究者になったつもりで、信頼できる情報を適切な人や組織を通じて探しましょう。学校や地元の図書館も使ってみましょう。自分のテーマについて調査を行ったり、インタビューをしてもよいでしょう。たとえば、核軍縮について意見を聞き、その回答をプレゼンテーションの中で引用するのも良いでしょう。その分野の専門家を見



カンボジアの Boeng Prolith 小学校にて劇団のメンバーが地雷があることを警告する様々な標識のポスターを持っている様子

核に関する用語集

火災旋風(火事嵐)：光、熱、爆風、放射線は、核爆発による影響の主要なものである。核爆発から生じるまばゆい光と太陽内部に匹敵する高熱は、火災旋風と呼ばれる現象を引き起こす。火災旋風は、周りから酸素を奪い、ハリケーンのような風を起こして瓦礫等のデブリを吸い込み、旋風をさらに拡大させて大火災を起こす。現在、firestormという言葉は、英語では論争を表す語として用いられる。たとえば、「バスと地下鉄料金の値上げとこの町の危機にfirestormが吹き荒れる」のように。

つけるのもよいことです。専門家にインタビューすれば、調査の質を高めることができるでしょう。

プレゼンテーションの原稿を書くときには、自分の主張を強調するような他の人の言葉を使うのも有益です。平和活動家でありノーベル賞受賞者のジェーン・アダムズは、そのスピーチの中で、「道徳的に正しいことを示す唯一の手段は行動することだ」と言っています。現在または過去の、影響力のある人々からの引用は、自分が主張したい事が正しいと証明するのに役立ちます。

発表をするのに十分な資料を揃えたらすぐに、それらをいくつかの重点分野に分割します。はじめは、簡単にテーマについて紹介し、なぜ自分がそのテーマに興味をもったのかを説明する部分です。包括的な質問を投げかけたり、自分の調査で明らかになる問いを提示する人もいます。なぜこの特定の問題が語られ、学ばなければならないのかを説明する短い時間を設けてもいいかもしれません。もし選んだ分野に関して既に文献が存在するのであれば、重要な主張に移る際にその本について言及し参照するのも良いでしょう。自分の意見を実証するために調べたことや引用を使って要点を説明しましょう。重要な点を要約し、短い結論を加えることも忘れないでください。

プレゼンテーションの練習をしよう：原稿を書き上げたら、繰り返し読んで練習しましょう。友だちに聞いていてくれるように頼み、読む時はアイコンタクトをしましょう。自分自身が要点や議論の展開をよくわかっていることが必要です。自分の声にとっての自然なリズムを知り、どこで抑揚をつけ身振り手振りを入れるかメモしておくといいでしょう。鏡の前で練習する人もいます。しかし、どのような方法で準備したかにかかわらず、自分の原稿により慣れ親しむことで、発表しやすくなります。また、発表にかかった時間を測ることも大切な練習の一つです。例えば持ち時間が15分間なら、与えられた時間内に発表が収まるようにしなければなりません。発表が長すぎれば、短くなるように調節する必要があるでしょう。

プレゼンテーションをまとめよう：話す内容を原稿に書き起こし、論点と自分の主張にしっかりと慣れるまで練習したら、プレゼンテーションの各セクションと重要なポイントをインデックスカードにまとめて、プレゼンテーションを進める際に参照できるようにしておくとい良いでしょう。原稿を読み上げた方が安心できるという人もいますが、何も見ないで話しているように見せた方が効果的であることが多いです。

原稿なしで話すというのは、形式ばらず、自分自身の経験を活かしてアドリブを入れたり、自分らしい話し方で話すということです。自分の書いた原稿のアウトラインとキーフレーズを書き出しておきましょう。たいていの人は、話の要点からずれていないか、話さなければいけないことを全部網羅しているか、カードを見ながら確認しなければならないはずですが、どれだけメモを見なくてもはならなかったとしても、原稿をまるまる読んでいないように見えないように話しましょう。自分の話す内容をまとめたカードは、落ち着いた自然な調子でメッセージを伝えるのに役立つでしょう。

プレゼンテーションしよう：会場には早く行き、フロアの人々を出迎えましょう。初めての場所に到着したときに迎えられると、良い気持ちになりますよね。単に「こんにちは」とあいさつするだけで、心を通わせることができます。あいさつすることで、居心地よく感じてもらうことができます。とくに初めてその場所にきた人にはその効果は大きいでしょう。そして、その雰囲気は「伝染」するものです。あな



ヒント

カードに重要な言葉や文章を書いておき、プレゼンテーションをするときにそれを見て確認する人もいます。

知って いましたか？

1940年から
1998年までに行われた
アメリカ合衆国の
核兵器開発の
費用の合計は、
5.5兆ドル以上です。

だが「こんにちは」と言えば、それに他の人も加わり、打ち解けた人たちのおしゃべりで部屋中が満たされるでしょう。リラックスした観客はより理解のある観客であることが多いのです。

冒頭は感謝の言葉で：スピーチに入る前に、感謝の気持ちを伝えたいと思うはず。学校、あるいは場所を借りるのに協力してくれた学校の先生、発表の原稿を書いたり練習するときに助けてくれた友だちや先生、調査の中でインタビューに応じてくれた専門家などに、感謝の言葉を述べましょう。誰かあなたを助けてくれた人が必ずいるはずですから、「ありがとう」ということは素晴らしいことなのです。

聞き手とつながろう：大人数、あるいは中規模の人数であっても、そのような場でスピーチをする際にはグループワークはしないほうがよいと思っている人がいるかもしれません。しかし、たとえ500人（あるいはそれ以上でも！）の人の前で発表するとしても、聞き手同士の対話を促すことはできますし、それは聞き手に主体的に関わってもらうのに効果的です。たとえば、小型武器についてのスピーチならば、話の流れの中で、小型武器および軽兵器の拡散に関連した暴力について知っていることを、2分間ずつ隣の人と共有してもらいましょう。銃を見たことはあるか、銃による暴力の被害者を知っているか、銃による暴力についてどう感じているか。時間を計ることを忘れずに、それぞれの持ち時間が過ぎたら伝えましょう。フロアを巻き込む方法はたくさんあります。グループワークはとても効果が高いです。ただし、あなたがその場を仕切って、時間が来たらあなたの発表に耳を傾けてもらえるようにしましょう。

プレゼンテーションを楽しもう：発表者がその内容について熱意を持っていれば、人々は感動するものです。聞き手とアイコンタクトをとりましょう。息継ぎするのを忘れずに。笑顔で。メモをチェックして、発表が予定通り進んでいるか、言い忘れたことがないか確認しましょう。終わりに近づいたら、発表の要点をまとめて締めくくりましょう。そして、もう一度関係者と観客に感謝することを忘れないようにしましょう。可能ならば質疑応答の時間を残しておくのが賢明です。

コートジボワールで、
内戦中、
地域病院の敷地に
入るところに
掲げられている
武器持ち込み禁止の
標識の前を
歩いて通り
過ぎてゆく女性





ACTION

REACH OUT

輪を広げよう



10

今日多くの若者は、インターネットの普及や新しいメディア技術の登場に伴い、活発に政治的な活動をするようになってきました。これらのテクノロジーは軍縮問題について幅広くコミュニケーションをとるためのとても効果的な道具となりうるでしょう。社会的な活動をする若者たちは、意識を喚起し、行動を起こすため、メールや、ネット署名、ブログ、Facebook、Twitter、インスタントメッセージ、SNSを使っています。メディアを使った新しい社会活動について、いくつか提案をします。

インターネットでのイベントやキャンペーンを企画しよう：インターネットを使って広報をしたり、あるいはイベントをインターネット上で行うといった方法が、コミュニケーションや社会への発信の分野で人気を増しています。Facebookのような登録者の多いSNS上でイベントを作成して参加を募ったり、小型武器や核兵器の軍縮に関する情報をウェイボー（微博：中国語話者のユーザーが多数参加）やOrkut（ブラジルやインドで人気）などのSNSで世界中に流すことができます。

Googleも、みなさんが使える便利な新しいツールを開発しています。Google+のアカウントを作れば、Google+上でイベントを作成して参加を募ったり、Google+ハングアウトを使って、いっしょにキャンペーンを行っている人たちとバーチャル会議を開いたり文書をシェアすることができます。これは連携を継続するのに役立つツールです。国連のGoogle+アカウントにアクセスするにはこちらへ：bit.ly/1jbSvS3

このようなサイトでグループやイベントを作成することの利点の一つは、つながることができる可能性のある人が非常にたくさんいるということです。あなたが作ったグループや活動を偶然見つける人がいるかもしれませんし、そのサイトの検索機能を使ってメンバーになってくれる人を探すこともできるでしょう。どちらの方法にしても、ネットを利用する世界中の人々に情報を届けることができますし、自分が重要だと思う問題に関心を持つアクティブな友達を様々な国に新しく作るすることができます。

自分で始める前に、SNS上のキャンペーンで成功しているものを見てください。チェックするポイントは、

1. 歓迎メッセージを書いて、はっきりと、キャンペーンやイベントに協力しようとする人々に何をしたいかを伝えましょう
2. 目標や目的を、はっきりと、簡潔に説明しましょう。
3. キャンペーンが何をテーマにしているかがわかるように、インパクトの強い画像をデザインするか既存のものを利用しましょう。
4. 自分が作成したビデオやデジタルストーリー（ACTION4参照）、インタビューを投稿しましょう。
5. ほかのメンバーにも投稿を促しましょう。キャンペーンの趣旨や重要なメッセージにはハッシュタグ（#）を用いてメッセージを検索しやすくしておけば、Twitterやインスタグラムのユーザーに広まりやすくなります。



2009年9月21日の
国際平和デーに向けて
さまざまな組織が共同で行った
100日間運動
「WMD-We Must Disarm」
キャンペーンの促進のため、
メキシコシティで開催されるイベントに
Twitterでメッセージを送る
潘基文事務総長

知って いましたか？

近年の主要な兵器供給国は、アメリカ、ロシア、ドイツ、フランス、中国であり、主要な兵器購入国は、インド、中国、韓国、パキスタン、シンガポールです。

6. 運営に協力してくれる人の人数に目標を設定しましょう。たとえば日を決めて、その日まで一定数のメンバーを集めてみましょう。
7. イベントのページのコンテンツを更新し続けましょう。多くのイベントのサイトでは、イベントの日時までの「カウントダウン」を挿入することができます。例えばFacebookには、他の人と共有できるカウントダウンアニメーションがあります。
8. イベントに参加してもらえるよう、すべての「友達」をイベントに招待し、彼らの「友達リスト」に載っている人たちにもイベントの情報をシェアしてくれるように頼みましょう。
9. 自分のイベントと同じような趣旨のキャンペーンを探して、その主催者や関係者に協力を頼みましょう。

Eメール：自分のEメールアカウントを持っていない学生がいれば、たとえばGoogleが提供しているGmail (mail.google.com) のようなフリーメールサービスを使ってアカウントを作ることができます。Gmailは最も広く使われているウェブベースのEメールプロバイダです。Gmailアカウントを取得すれば、文書やプレゼンテーション、表計算シートを作成できるGoogleドライブや、データを可視化できるGoogleフュージョンなど、ほかのGoogleのアプリケーションを利用できます。GoogleアカウントのユーザーはそのアカウントでYouTubeのような他のソーシャルメディアに接続できます。登録方法はウェブ上で簡単に調べることができますし、サービスは様々な言語で提供されています。

BluMail (bluworld.org) もお勧めです。これはインターネットを使いはじめた途上国の人々数百万人を対象とした、グローバルなEメール、教育、ネットワーキング、仕事、起業、社会活動のためのポータルサイトです。BluMailは、紛争解決や幼児教育、起業、環境、健康な生活、人権、宗教的理解、女性のエンパワーメント、世界についての知識、若者のリーダーシップに焦点を当てた教育コンテンツを提供しています。

テキストメッセージキャンペーン：携帯電話を利用したテキストメッセージキャンペーンが増えてきています。テキストメッセージキャンペーンは、情報を素早く拡散し、情報を集め、嘆願書のための電子署名を集めるのに向いているツールです。経費をあまりかけずに携帯

電話を利用したテキストメッセージキャンペーンを行うにはいくつかの方法があります。簡単な方法は、一つのメッセージをまとめた人数の人に送ることができるメールの大量送信サービスを準備することです。例えば、このサービスを使って、小型武器や核軍縮についての教育系イベントについてのメッセージを自分の電話の電話帳に登録されている全ての携帯電話に送ることができます。

どのように送信リストを作成し、維持するかを考えておかなければなりません。多くの場所では、本人が希望していないのに送りつけられるメッセージ(迷惑メール)を送ることは違法です。ですから、あなたが送信リストに加えたいと思う人にはメッセージを送る許可をもらい、後日その人が望めばリストから退会できるようにしくみを作っておく必要があります。自分が企画したイベントで、送信リストに加わってくれるよう来場者を勧誘しましょう。これは登録してもらうのに最適な方法です。

キャンペーンの重要な要素として携帯電話を利用する興味深い方法はほかにもあります。「携帯 + 社会変革」、「携帯 社会変革」や「携帯社会活動」、「SMS 携帯 キャンペーン」のようなキーワードで検索してみましょう。見つけたものを見て、武器の貿易や核軍縮の意識を高めるのにどのように使うことができるかを考えてみましょう。

インスタントメッセージ (IM)：インスタントメッセージングを使って、同じようなことに関心を持っている人とやり取りを続けることができます。インターネットを通じて、文字や音声でコミュニケーションを取ることができるサービスです。多くのIMサービスは無料で利用が可能で、インターネットを通じて簡単にダウンロードできます。

世界には何百万人ものスマートフォン利用者がいて、そのほとんどの人がインスタントメッセージを使っています。スマートフォン用のIMアプリで、メッセージや音声、ビデオ通話もできます。

携帯電話用アプリケーションの流行は変遷が激しいので、企画を実行に移そうとするときにどのアプリが一番対象とする人々に影響を与えることができるのか常に把握しておくことが重要です。世界の他の国や地域でどのメッセージアプリが良く使われているのかを調べることも忘れないようにしましょう。また、これらのアプリにメッセージを投稿して世界に輪を広げるために、企画のメッセージを他の言葉に翻訳してくれる人を探しましょう。

知って いましたか？

弾薬は小型武器問題においてカギとなる構成要素ですが、国際的な弾薬の流通についてはほとんど知られていません。実際、80%以上の弾薬は信頼のおける輸出データから外れたままなのです。

知って いましたか？

世界に備蓄されている
核兵器のうちの約90%を
アメリカ合衆国と
ロシア連邦が
保有しています。

Twitter : Twitterは当初、友人や家族、同僚が「いまどうしてる？」というシンプルな質問に対して迅速かつ頻繁に更新し合うことで連絡を取り合い、関係を保てるようするために開発されました。今では社会的な運動やビジネスのための強力なコミュニケーションツールです。

Twitterに投稿されるメッセージはすべて140文字以内でなくてはなりません。この文字数は携帯電話のショートメッセージの文字数に合わせて決められました。たった140文字以内に考えを収めるのは難しいけれども、これによって本当に何を伝えたいのかを真剣に考え、簡潔に伝えることができるようになります。Twitterを使うには、最初にwww.twitter.comで無料のアカウントを作成することで、ツイートするための自分のページを作ることができます。Twitterアカウントを持っている人ならだれでもあなたを「フォロー」できます。つまりフォロワーがあなたの更新を見ることができるということです。

ツイートするときに重要なことは、フォロワーにあなたのツイートを自分たちのフォロワーにも拡散してもらうことです。Twitterは構造的にたくさんの人に短時間で情報を拡散することが出来る乗数効果があります。

翻訳 : 異なる言語で伝えることは難しいですが、オンラインの無料翻訳サービスを使うことでより簡単になります。単に指定の枠内に入力して翻訳したい言語を選ぶだけです。これらのサービスは完璧からは程遠いですが、異言語でコミュニケーションを取りたいと思う世界中の若い活動家に役立つような基本的な翻訳例を示してくれます。**Yahoo! Babel Fish** (www.babelfish.com) **Google翻訳** (translate.google.co.jp) の二つがよく使われています。

感謝で包み込もう

『軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと』の主な目的は、みなさんに社会変革を起こす一人として自分なりの方法で自分自身を表現してもらうようにすることです。自分を表現することは重要で、その表現を感謝から始めれば、たくさんの人を相手にする状況（ミーティングを進行したりスピーチをするような場合）でも、落ち着いてこなすことができるでしょうし、一人で仕事をするとき（発表の準備

をしたり、手紙を書いたりするような場合）は心を落ち着けることができます。そして、感謝から始めるということは、人生や生活の中で自分が感謝していることについて考えるということです。多くのものを「感謝すべきもの」とみなすことができます。例えば家や私たちが呼吸するきれいな空気、また、愛する人や好きな食べ物、特別な場所などです。幸福についての研究によると、「ありがとう」と言ったり、自分が今与えられている状況に感謝の気持ちを感じたりすると、幸福感が増すことが証明されています。さらには、誰かに「ありがとう」と言うと、自分だけでなく感謝した相手もうれしく感じてくれます。

感謝の気持ちを表現することを練習する一つの方法は、日記を書いて感謝したことや記録をつけることです。毎日感謝の気持ちを抱くようなことが起きます。日記にこれらを含めていろいろなことを書いてゆけば、自分の幸せや感謝の気持ちを思い出すことができ、それはうまく行かないときや悲しいときの助けとなります。書いたことを見返して、自分に感謝の気持ちを抱かせるものが何であるのか、何であったのかを思い出すことは価値ある事です。

ぜひやってみてください。自分のごく身近で3つ、ありがたいと思うことを探してそれについて自由に書いてみましょう。次に、探す範囲を家族や友人に広げて3つ。次にまた範囲を広げて自分の所属するコミュニティ、さらに広げて世界の中でありがたいと感じるものを3つ。最後に自分自身、今の自分と将来なりたい自分について、感謝できる点を3つ探して書いてください。この練習を、友人とシェアしましょう。きっと感謝の気持ちを持つ理由がわかるでしょう！

ヒント

イベントを
企画するために
ウェブサイトを作ったり
ソーシャルメディアを
使うならば、
Google
アナリティクスなどの
ウェブ解析ツールや、
Facebook・
Twitterなどを
対象とした
ソーシャル解析ツールを
利用してアクセス解析を
行うことを
考えてみましょう。
これらのサービスは、
だれがあなたのサイトを
利用しているかについて、
情報を提供してくれます。
このデータを通して、
輪を広げることに
成功しているかどうかを
知ることができます。

過去を非難しても私たちの心は癒えません。
歴史はすでに起こってしまったものです。
終わってしまったものです。
私たちにできるのは、嫌いなものを破壊するのではなく、
愛するものを育むことで、歴史の流れを変えることだけです。
残酷で傷ついた私たちの世界にもまだ美しいものがあります。
隠れていますが、すさまじく、計り知れない美しさです。
それらは私たちに固有です。
私たちは他者から美しいものを感じ取り、高め、
再び見出し、自分自身のものにしてきました。
美しいものを見つけ出し、育み、愛さなければなりません。
爆弾の製造は私たちに破壊するだけです。
爆弾を使うか、使わないかは関係ありません。
どちらにせよ爆弾は私たちに破壊するのです。
ふざけているわけではありません。ただ爆弾の製造は
確実に地獄への近道となると指摘しているのです。
核兵器は非常に恐ろしいものを意味します。
それは、想像力の終焉です。

アルンドハティ・ロイ、作家・活動家 ◀



終章

国際連合事務総長による 核軍縮へのよびかけ

私たちが軍縮・不拡散のためにできることは実際には10以上あります。この本は若者だけでなくすべての人に読んでいただきたい本です。国連事務総長の潘基文は、My Plan to Drop the Bomb (核兵器をなくすための私の提案)と自分自身が呼んでいる5つの提案をしました。事務総長は、軍縮を検証可能で法的拘束力のあるものにするのと、国連安全保障理事会を通じた行動によって軍縮が再び進むことを希望しています。そして包括的核実験禁止条約の発効のため、各国に批准プロセスを完了するよう求めています。さらに、事務総長は核兵器国が核兵器の規模や保管場所を明らかにし、最終的には大量破壊兵器およびその運搬システム——核兵器が放棄されたことによる真の平和の配当を非核兵器勢力が持ち去ることがないように限定的ミサイルや通常兵器も含んで——を破壊するために、透明性と説明責任の重要性を強調しています。

Drop the bomb (爆弾をなくす)のための努力においては、世界から核兵器をなくし、小型武器の違法な取り引きを終わらせることを考えるだけでなく、私たちは力をあわせて戦争もdrop(なくす)することを目指さなければなりません。国連憲章第26条によると、「世

界の人的及び経済的資源を軍備のために転用することを最も少くして国際の平和及び安全の確立及び維持」を私たちは打ち立てる義務があります。これは正しい方向への第一歩です。しかしながら、このままでは平和と安全保障に対する今日の脅威はどこの国も単独で解決することはできないということを私たちが理解しているように、戦争が非効率的であることと平和は可能だけでなく必要なのだということも認識できるようになるでしょう。私たちは、核兵器の備蓄を減らすか、あるいは核兵器が拡散するかの重大な交差点に立っているのです。同じように、世界中で紛争と不安定を激化させる小型武器の不法な移転も今すぐに止めなければなりません。何年も停滞が続きましたが、今、軍縮への機運が高まっています。参加するなら今です！

広島にあるサダコの像(原爆の子の像)：

佐々木禎子(1943年1月7日—1955年10月25日)は日本人の少女で、1945年8月6日に広島にある自宅近くに原爆が落とされたときには2歳だった。

禎子は死ぬまで折り続けた千羽鶴の話で知られており、

今では戦争の無垢な被害者のシンボルとなっている。

今でも、彼女を追悼して学生たちが鶴を折り続けている。





国連憲章 第26条

世界の人的及び経済的資源を軍備のために転用することを最も少くして国際の平和及び安全の確立及び維持を促進する目的で、安全保障理事会は、軍備規制の方式を確立するため国際連合加盟国に提出される計画を、第47条に掲げる軍事参謀委員会の援助を得て、作成する責任を負う。

教育者のみなさんへ

2002年8月、国際連合は軍縮および不拡散 (DNP) 教育に関する報告書を発表しました。コフィ・アナン前事務総長は序文で、核兵器による破滅的状況という常に存在する恐怖を知らないまま、全く新しい世代の人間が成人に達しつつあるという重大な現実に触れました。軍縮教育はこの恐怖が依然として存在していることを思い起こせるよう促す重要な役割を果たしています。恐怖を思い起こすことは、どうやってより良く国際の平和と安全を達成するかという問題にかかわる概念や議論を明確に理解するための強力なツールとなるでしょう。『軍縮のためのアクション: あなたにもできる10のこと』は、軍縮・不拡散について「公的なものについても私的なものについても」意思決定に参加するべく若者たちを能力強化することと、願わくは彼らの安心と安全が高まり、究極的には人類全体の安全が高まることを目的としています。

軍縮教育はここ数十年で何度か変化を遂げました。はじめ、冷戦時においては核兵器に焦点が置かれていましたが、1990年代には地政学的変革が起き、通常兵器、特に小型武器、軽兵器、地雷の取り扱いを含む多国間での軍縮に広がりました。今日では、DNP教育はテロの脅威を含むものにまで広がっています。とりわけ核の密輸は懸念となっています。原子力技術が拡散したことで、核物質が盗まれたり他の用途に転用されたりする可能性が増えています。1993年以来、放射能兵器に利用される放射性物質を含む核の密輸について、多くの事例が確認されてきました。新しい脅威には新しい思考が必要です。DNP教育は、この脅威を減らすための新しい方策を生み出すという作業に、一般の人々に関わってもらうという重要な役割を担う力を秘めています。

往々にして、紛争や武器の拡散に関する情報は過去のものであり、これは既に暴力行為が起きてしまっているという事を示します。軍縮教育は、未来に平和と安全、人権の文化を実現するため、私たちには何ができるのかを問います。この本を積極的に取り入れ、軍縮・不拡散

に向けたさまざまな方策を未来形で利用し、変化と変革をもたらしてくださるようお願いいたします。若者の行動こそが未来においてとても重要であり、若者に自ら人に教え、人から教わる力を与えることはこの本の目的の一つです。軍縮教育は、学生たちに根付いてしまっている受け身の学習と教員からの指示待ちの姿勢を打破します。この本はほかでもなく、若者が世界に変化をもたらすような行動をどのように取ることができるかについてのマニュアルです。この本の好きな所から、ご自身の状況や関心に最もよく合った方策を選んでください。これらのアイデアは誰もがより平和な世界を想像するのを助け、それを現実にするためのものです。

国連軍縮・不拡散教育 政府専門家集団

国連軍縮・不拡散教育政府専門家集団は、軍縮・不拡散教育の将来の方向性を示すため、国連総会決議55/33 Eにしたがって召集されました。国連専門家グループが行った研究が挙げた6点のマンデートでは、軍縮・不拡散教育の新しい方法を定義し、社会のあらゆる段階にこの教育を実行していくことを奨励しています。軍縮についての教育だけでなく、軍縮のための教育も奨励しています。

この研究で定義されている通り、DNP教育は、軍縮のプロセスに貢献できるように人々を能力強化するようなスキルや知識を開発することを重視しています。この場合の軍縮はとくに核兵器ですが、違法な小型武器のより良い管理も含まれます。DNPは、効果的な統制のもとでの相互に許容できる水準への武器の削減を促進し、平和、安全保障および持続可能な開発の間を結びつけることによって、国家および国際の安全保障を高めることを追及しています。この研究では



子どもたちに
地雷および不発弾の
危険について教える学校の先生



国連の旗を振る子どもたち

DNP教育にとって有益ないくつかの教授法の案が概説されていますが、それらは全て学生一人一人を情報や経験、地域的な視点、洞察力のリソースとみなしています。DNP教育の教授法には、軍縮・不拡散問題への学生の探求を支えるような、双方向型学習のほうが合うでしょう。この参加型の授業方法には、次のようなものがあります。知識を深めるための探求的研究、問題解決、グループディスカッション、クリティカルリスニング、問題の複雑さと視点の多様性の尊重、共有知識の明確化とリフレーミング、学びの拡大と異なる環境への知識の応用です。この本は批判的意識化と、社会的変革を生み出すスキルや能力の発展に寄与することを目標としています。

安全保障上の脅威

武器による暴力と戦争は防がれるべきで、少なくとも制御されるべきだという考えは、国連憲章の神髄となっています。前文では戦争の惨禍から将来の世代を救うべきだとも述べられています。国連の創始者らが採用した集団安全保障体制は、もっぱら安全保障に対する軍事的脅威に焦点を置いています。今日、平和と安全保障は軍事紛争がないという観点からだけ見られることはありません。すべての人々にとっての安全保障上の利益も、国内あるいは国際的な緊張の中心となる貧困、飢餓、環境悪化、人権侵害によって侵されると考えられています。国際的安定への共通の探求は、安全保障と開発、人権の間の複雑な相互作用に基づいています。これらを分けて考えることはできないのです。

国際安全保障は複雑で、紛争を解決して平和を勝ち取るにはしばしば同時にたくさんの創造的な方策が必要です。軍縮・不拡散を主張する理由はいくらでもあります。最も重要なことは命——人類一人一人の命と私たちみんなを支える自然環境——を守ることなのです。

国際連合憲章

前文

われら連合国の人民は、

- われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い、
- 基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、
- 正義と条約その他の国際法の源泉から生ずる義務の尊重とを維持することができる条件を確立し、
- 一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること、

並びに、このために、

- 寛容を実行し、且つ、善良な隣人として互に平和に生活し、
- 国際の平和及び安全保障を維持するためにわれらの力を合わせ、
- 共同の利益の場合を除く外は武力を用いないことを原則の受諾と方法の設定によって確保し、すべての人民の経済的及び社会的発達を促進するために国際機構を用いることを決意して、
- これらの目的を達成するために、われらの努力を結集することに決定した。



コンゴ民主共和国
(DRC)

イトゥリ州東部の
ブニアにある

動員解除センターの
地面に置かれている
武器と弾薬

PHOTO CREDITS フォト・クレジット



pg.4-5 © UNSMIL/Iason Founten



pg.8 © National Archives



pg.9 © National Archives



pg.24 © UN Photo/Tobin Jones



pg.28-29 © UNICEF/NYHQ2011-1980/Roger Lemoyne



pg.33 © UN Photo/Rick Bajornas



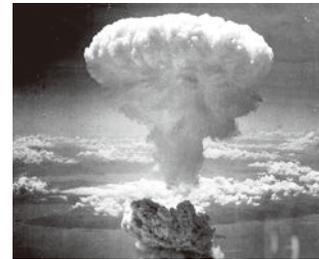
pg.10 © Shigenobu Tsukiji



pg.10 © Kazuo Kawaguchi



pg.10 © Hiroko Yoshiyama



pg.37 © National Archives



pg.39 © Kazuo Kawaguchi



pg.40 © Shiego Hayashi



pg.13 © UNICEF/NYHQ2011-2415/Jan Grarup



pg.17 © UN Photo/Martine Perret



pg.19 © UN Photo/Victoria Hazou



pg.41 © Hidetsugu Aihara



pg.43 © UN Photo/Mark Garten



pg.44-45 © UNICEF/INDA2011-00314/Niklas Halle'n



pg.21 © National Archives



pg.22 © UN Photo/Tobin Jones



pg.23 © UN Photo/Ky Chung



pg.49 © UN Photo/Paulo Filgueiras



pg.52-53 © UNICEF/NYHQ2004-1150/Giacomo Pirozzi



pg.57 © UNMAS/S. Carmichael



pg.58 © UNMAS Palestine



pg.63 © UNICEF/INDA2011-00208/
Niklas Halle'n



pg.64-65 © UN Photo/Martine Perret



pg.93 © UNICEF/NYHQ1992-0327/
John Isaac



pg.98-99 © UNICEF/NYHQ2011-
1561/Iyad el Baba



pg.103 © Yin Ling



pg.69 © REUTERS/Danish Siddiqui



pg.70 © UN Photo/Mark Garten



pg.73 © UN Photo/Tobin Jones



pg.108-109 © UNICEF/INDA2011-
00430/Prashanth Vishwanathan



pg.113 © UNMAS/Sasha Logie



pg.115 © UN Photo/Marie Frechon



pg.75 © UNICEF/NYHQ2002-0440/
Giacomo Pirozzi



pg.76-77 © UNICEF/NYHQ2007-
2869/Giacomo Pirozzi



pg.81 © UNICEF/NYHQ2010-2852/
Brent Stirtion



pg.116-117 © UNICEF/NYHQ2012-
1041/Shehzad Noorani



pg.121 © UNICEF/NYHQ2004-0763/
Dan Thomas



pg.125 © UNICEF/NYHQ2011-0051/
Olivier Asselin



pg.82 © Viva Rio



pg.83 © UNICEF/NYHQ2007-2693/
Giacomo Pirozzi



pg.88-89 © UNICEF/BANA2013-
00314/Habibul Haque



pg.126-127 © UN Photo/
Martine Perret



pg.131 © UN Photo/Evan Schneider



pg.137 © UN Photo/John Isaac



pg.139 © International Network of Universities



pg.140 © UN Photo/Ryan Brown



pg.143 © UNMAS/Jacob Simkin



pg.144 © UNMIT/Martine Perret



pg.146-147 © UNICEF/NYHQ2005-1260/Roger Lemoyne

訳者あとがき

オリジナル版のACTION FOR DISARMAMENT: 10 THINGS YOU CAN DO! が出版されたのは2014年春で、その約1年前に調印された武器貿易条約 (ATT) の発効に向けて各国が批准手続きを進めているころでした。小型武器の問題に取り組んできた市民社会を中心に、国際的にATTの話題で盛り上がっていた時期です。このオリジナル版の出版を受け、東京の国際連合広報センター (UNIC) の根本かおる所長から、学生たちといっしょにこの本を和訳してみないかというありがたいお話をいただきました。そこで、東京大学教養学部前期課程 (1,2年生) の学生を対象に行っている全学自由ゼミナール「平和のために東大生ができること」(正課授業)で、さっそく2014年度夏学期の授業のタスクの一つをこれに定め、履修者に翻訳チームを作らせて下訳に着手させました。

実際に携わっていらっしゃる方はよくご存じだと思いますが、翻訳をするには、書かれていることの数倍の周辺事項を正確に知っておかなければなりません。単に母語で本を読むよりも調べなければならないこと、知恵を絞らなければならないことが多く、その分、学びも大きくなります。学生たちにとっては負担の大きな仕事だったかもしれませんが、彼らは授業外でも自発的に勉強会を開き、何度も議論を重ね、やりがいを持って熱心に取り組んでくれました。

この本の中には、軍縮・不拡散の問題に限らず若い人たちが能動的に何かに取り組む際に使えるヒントがつまっています。情報通信分野の発展に伴って出現した新しい、しかも若者たちが日ごろ使い慣れている手段を使った手法が紹介されるなど、学生たちに「これならできる

かも]と思わせるものがいくつもあります。単に社会運動をやれとけしかけるのではなく、学内設備や公共の場を利用するには前もって必要な許可を取っておくとか、他人のデザインや写真を使う際には利用規約に従うようにとか、本人の了解なしにメールリストに勝手に加えるな、など、社会人としてのマナーも随所に繰り返し書かれており、これは教育関係者として歓迎すべきことです。また、ローカル重視の視点や、イベントTシャツを作る際に児童労働等の問題のある工場生産されたTシャツを仕入れないようにといった、特定の目標・目的にばかりとらわれていると見落としがちな重要な点が指摘されているなど、教育的利用価値は非常に高い本なのではないかと思えます。

一方で、学生たちが訳しながら驚いていたのは、本が勧めているイベントの例に「デモや集会」があったり、議員に手紙を書くのに10のACTIONのうちほぼ丸々一つが割かれているなど、おそらく日本の社会・政治風土にはなじみにくいと思われる部分です。この本の中にも「活動をする際には相手の環境を慮って」という趣旨の記述が出てきますし、ACTIONの選択も「環境に合わせて自由に」とあるように、必ずしも提案されているものすべてのACTIONがどこでも同じように採用できるわけではありません。この本を手にとられ、学校・大学で学生とともに取り組んでみようと思われる先生方、日本で広く適用可能な手段を考え、互いに成功体験を積んで、和訳ではなく本当の意味の「日本版ACTION FOR DISARMAMENT」をいっしょに作りませんか？

和訳版作成にあたっては、上述したとおり授業で取り組んでくれた学生たちの努力が不可欠でした。とくに1,2年生へのアドバイスや下訳の統合・チェックに献身してくれた、2014年当時3年生の松野雅人さん(教養学部総合社会科学分科国際関係論コース)と川口真さん(法学部)、そしてゼミ長として統括とメンバーへの叱咤激励、ならびに下訳チェックを3年生とともにしてくれた、当時2年生の立石泰佳さん(教養学部文科二類)は、名前を記して貢献を称えたいと思います。

末筆となってしまいましたが、この本の翻訳作業に学生たちを携わらせる機会をくださったUNIC東京の根本かおる所長および国連広報局のウィリアム・ヨティフさん、完成までの間、常に進行具合を気にかけてアドバイスをくださり、遅い仕上がりにもかかわらず辛抱強く待ってくださった根本所長以下UNICのみなさん、非常に厳しい納期での仕事をお願いしたにもかかわらず、柔軟な思考と完璧な仕事で対応してくださった原宿春夏の浅井春美さんとデザイナーのみなさんに、心から感謝の気持ちを捧げます。

2015年7月
 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
 附属教養教育高度化機構
 岡田 晃枝

軍縮のためのアクション あなたにもできる10のこと

2015年7月31日

- 著 者 国際連合広報局・国際連合軍縮部
- 翻訳者 岡田晃枝・東京大学教養学部全学自由研究ゼミナール
「平和のために東大生ができること」
- 発行者 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
- 協 力 国際連合広報センター(東京)
- 編 集 有限会社 原宿春夏
- 印 刷 株式会社 グラフィック

*本書は非公式翻訳書であり文責は発行者にあります。

ACTION FOR DISARMAMENT

10 THINGS YOU CAN DO!

軍縮のためのアクション

あなたにもできる10のこと

この本は世界中の若者たちに、軍縮を通じて国際の平和と安全を促進することに関心を持ってもらうために書かれました。すべての国の若者たちには、小型武器および軽兵器ならびに大量破壊兵器による脅威を減じるための新しい戦略に、社会の人々を参加させるという重要な役割を負っています。この本は、十代から二十代前半までの若者たちが、世界の安定と将来の人類のために軍縮がなぜ重要なのかを社会の人々に知ってもらう際に役に立つものです。動員、行動、そして国際連合が掲げる軍縮の目標を地域から国家レベルで促進するために若者たちが使える情報が、10の実践的なステップで紹介されています。軍縮は絶対的に必要であり、将来の世界を担う世代に積極的に推進してもらいたいと、この本は論じています。